

八 赤道以北旧領諸島委任統治ニ関スル件 四四五

五一四

席スル委員ハ阿弗利加ノ委任統治地域ヲ批評スルノ立場ヨリ之ニ十分ノ interest ヲ有スル委員ヲ任命スルコトヲ要スト思考ス徒ニ太平洋ニ存スル小島嶼ニ関スル小利益ヲ主張スルカ如キコトハ避クヘキコトナリ終リニ来年度以降ノ委任統治委員会ニ関シテハ（今後ノ方針）

一、會議開会ハ八月上旬ニシテ年報ハ六月末迄ニ事務局ニ呈出スルコト

二、帝国トシテモ阿弗利加ニ関スル智識ノ中心ヲ作り置クコト必要ナリ是委任統治ノ主タル問題ハB式委任統治ニ集中セラル状況ナル故ナリ

三、委任統治委員会ノ規則ニ依レハ受任國ハ弁護ノ地位ニ立ツヘキ代表者ハ専門家ヲ一名帶同シ會議ニ出席スルコトナレルモ石井大使ノ言ノ如ク帝国トシテハ斯ルモノヲ毎年出張セシムニハ人モ無ク便宜モ少キ故ニ在外公館書記官之ニ当ルコトトナルヘシ斯ル時ノ必要ナリト思考シ大沢氏ニ然ルヘク依頼セリ本省國際聯盟係ヨリモ帝國委任統治領ニ関スル資料有ラハ送附アリ度キモノナリ

事項九 國際聯盟ニ於ケル軍備制限問題ニ関スル件

四四五

一月二十一日 在巴里竹下海軍中將ヨリ

加藤海軍大臣山下軍令部長宛(電報)

次回聯盟常設軍事諮詢委員会ノ開催及議題二

関スル件

三十六番電

(一月二十三日接受)

一、次回聯盟軍事委員会ハ二月十六日頃ヨリ「ゼネヴァ」

ニ開催ノ予定ナリ

二、議長予想議題トシテ通知シ来レル事項左ノ如シ

(一)武器売買條約ニ関スル件(聯盟総会決議第一項)

(二)民業ニ依ル兵器製造ニ関スル件(聯盟総会決議第二項)

(三)軍備制限ニ関スル件(軍事委員会決議第三項)

是等ノ問題ハ理事會カ如何ナル決議ヲ為シヤ又是等ノ問題ニ關スル意見ニ付政府ニ請訓スルハ軍事委員会ノ関与スル所ニアラサレトモ次回會議迄ニ第一第二ノ問題ニ關シ各委員ハ事前ニ研究ヲ為シ置クハ必要ナルヘシト思考

武器売買條約ニ関シテハ(脱)確定的意見提出シ得ル為各委員ハ某日例ヘハ千九百二十一年七月一日ヲ期シ署名國ハ全部本條約ヲ批准スルモノトセハ各國政府ハ本條約批准ニ同意スヘキヤ否ヤ又各國ハ右期日後ニ於ケル武器売渡ノ通報ニ同意スヘキヤ否ヤニ付各當局ニ請訓シ置カレンコトヲ望ム
民業ニ於ル武器製造ニ関シテハ軍事委員会ハ現時ニ於テハ本問題処理ニ任スヘキ機関ヲ編制計画スル位ノ程度ノモノナリト思考ス各委員ハ二月ノ會議ニ於テ本問題議題トナリタル時本問題ニ關シ意見ヲ發表シ得ル如ク準備アリ度又本問題討議ノ際理事会ニ對シ財政及經濟上ノ専門家ノ派遣ヲ要請スルノ可否ニ付研究シ置カレンコトヲ望ム
三、右第二項ニ對シ本職心得ノ為海軍ノ御意見御指示ヲ得

四四六 二月十二日 内田外務大臣ヨリ
在仏國石井大使宛 (電報)

サンセバスチャン第一回常設軍事委員会決議

二基キ兵器弾薬ノ輸出状況ニ関スル報告提出

要請ノ通告ニ関シ問合ノ件

第一四八号

昨年八月「サンセバスチャン」ニ於ケル第一回常設軍事委員会ノ決議ニ基キ同委員会事務官ヨリ同月二十六日附ヲ以テ各國政府ニ対シ兵器弾薬ノ輸出状況ニ関スル報告ヲ提出スル様通告ヲナシタルカ帝国政府ハ之ニ対シ已ニ処置済ナリヤ否ヤノ趣稲垣中将ヨリ陸軍省へ問合アリタル處政府ニ於テハ未タ右通告ニ接シ居ラサルニ付テハ同通告ハ果シテ帝国政府ニ対シテモ發セラレタルモノナリヤ至急御取調ノ上回電アリタシ

四四七 二月十六日 在巴里竹下海軍中將ヨリ
加藤海軍大臣山下軍令部長宛(電報)
會議議題トシテ國際水路局設置追加並植民地
及委任統治地方人民ノ軍事的不使用勸告ノ適否ニ關シ請訓ノ件

一、尚同會議ノ際婦人連盟協会ノ提出ニ係ル殖民地又ハ委任統治地方人民ヲ軍事ニ使用セサルコトヲ勸告スル件ヲ討議スヘキヤ否ヤニ付意見ヲ定メ置カレ度旨議長ヨリ通知アリ提案ノ要領左ノ如シ

婦人連盟協会ハ殖民地兵ノ使用ニ依リ生スル弊害ヲ重視ナリト認メ歐州各國カ遠隔ノ地方ニ於テ僅少ナル入費ヲ以テ服従心ニ富ム多數ノ軍隊ヲ有スル間ハ厭フヘキ殺傷ヲ防止セントスル希望ヲ達セラルコトナカル
ヘシ且又自治制度ノ國民ハ自己カ軍務ニ服スル目的及戰ハサルヘカラサル時機ニ關シ適切ナル判断ヲ為シ得ルニ至リシモ殖民地兵ハ如何ナル目的ニモ使用シ得ルノ器具ノ如キモノナリ遠隔ノ地方ニ於ケル未開土民ヲ歐州ノ戰場ニ送リ彼等ヲ殺傷スルハ不都合ナリ婦人協

会ハ聯盟總会第六分科会ニ対シ本問題ヲ研究シ殖民地及委任統治地ノ人民ハ其ノ地方ニ於テ治安維持ノ目的以外ニ徵集使用セサル様聯盟加入国ニ申込ムヘキ旨理事会及總会ニ勸告セラレントラ望ム

四四八 二月二十三日 山梨陸軍次官ヨリ
塙原外務次官宛

國際聯盟ノ規約ニ基キ各國陸軍軍備狀況通告

樣式決定ニ關シ通牒ノ件

陸軍省
送陸軍省
大正十年二月二十三日

(二月二十四日接受)

官房機密
第一回聯盟總会ニ於ケル軍備ニ對スル決議ニ關スル件
大正十年二月二十三日

井出海軍次官ヨリ
塙原外務次官宛

四四九 二月二十三日 井出海軍次官ヨリ
塙原外務次官宛

第一回聯盟總会ニ於ケル軍備ニ對スル決議ニ關スル件
大正十年二月二十三日

官房機密
第一回聯盟總会ニ於ケル軍備ニ對スル決議ニ關スル件
大正十年二月二十三日

井出海軍次官
塙原外務次官宛

外務次官 塙原正直殿
首題ノ件ニ關シ國際聯盟陸軍代表者ニ左記ノ通り訓令相成候条及通牒候也

左記

聯盟規約第八条ノ軍備制限ノ基礎タル各國陸軍軍備狀況通告様式ノ決定ニ關シテハ國聯陸密一三ノ英國案タルト國聯陸五ノ伊國案タルトヲ問ハス左ノ通り心得ヘシ

一、大國中米露独カ未タ聯盟ニ加入セサル間ハ機密事項ノ

九 國際聯盟ニ於ケル軍備制限問題ニ關スル件 四四八 四四九

第一回聯盟總会ニ於ケル軍備ニ對スル決議ニ關スル件右ニ關シ左記ノ通り在巴里竹下海軍代表ニ電報致候条御承知相成度右通知ス

九 國際聯盟ニ於ケル軍備制限問題ニ関スル件 四五〇

五一八

第一回聯盟總会ニ於ケル軍備ニ對スル決議ニ關スル當方ノ意嚮ハ左ノ通リト御承知ノ上適宜處理相成度

一、「サン、ゼルマン」協約ニ關シテハ各國ト歩調ヲ一ニシ帝國ニ於テモ批准スルニ異存ナキ主務省ノ意嚮ナリ但シ本協約ニ對スル米國ノ態度ニ付テ顧慮スル必要アルヘシ尚詳細ハ陸軍代表ニ訓令アル筈ナリ

二、第二条ノ民業ニ依ル武器彈薬ノ製造ニ關シテハ既ニ訓令サレタル帝國ノ主張ニ反セサル限り同意サレ差支ナシ三、第三条ノ一及二ニハ異存ナシニ付テモ異存ナキモ其ノ蒐集セル情報ノ發表ノ程度及時機ニ關シテハ常設軍事委員会ノ決定ニ從フコト四ニ付テハ聯盟規約改正ニ關スル理事会ノ審查ノ際何分ノ儀更ニ申進ムヘキモ差当リ帝國トシテハ該審查機關カ各國政府ノ提出セル情報ノ真偽如何ニ立入りテ審查スルカ如キ聯盟成立ノ精神ニ悖ル機関ノ設置ニハ同意セサルヘシ之ニ付テハ勿論同意シ能ハス

四、大正十年度海軍予算ハ目下貴族院ニテ審査中ニ付追通知ス

員氏名至急御電報相成度ク若シ委員ヲ出サザル御考ナルニ於テハ其旨折返シ御回電相成度シ

四五一 二月二十六日 在巴里竹下海軍稻垣及靜間陸軍各代
表ヨリ
陸海外三大臣及軍令部長各宛(電報)

軍事委員會總会ニ於テ運営手続決議ノ件

(一月二十八日接受)

聯盟軍第五番電
二月二十四日聯盟軍事委員會總会ニ於テ左記条項ヲ決議ス

一、聯盟軍事委員會ハ一問題毎ニ報告者ヲ定メ該報告者ハ聯盟理監事會ニ報告ヲ提出シ要スレハ其説明ニ任スルモノトス

二、聯盟軍事委員會書記局ノ接受シタル書類ハ全部参考ノ為各委員ニ配付スルモノトス是等書類ハ公式ニ聯盟理事會ヨリ諮詢セラレ又ハ聯盟軍事委員會委員ヨリ議題トシテ要求セル場合ニ限り討議ニ付スルモノトス(一月二十六日)

四五二 二月二十六日 在巴里竹下海軍稻垣及靜間陸軍各代

表ヨリ
陸海外三大臣及軍令部長各宛(電報)

軍事委員會總会開催武器売買條約兵器民營軍

九 國際聯盟ニ於ケル軍備制限問題ニ關スル件 四五一 四五二

四五〇 二月二十五日 在仏國石井大使ヨリ 内田外務大臣宛(電報)

常設軍事諮詢委員會ノ構成及顏触ニ關スル件

(一月二十七日接受)

貴電第一七三号ニ關シ二月二十五日ノ理事会ニ於テ本件委員会ハ(1)政治、經濟、社會問題ニ通ズル各國政治家五名(2)軍事委員会及(3)労働理事会ヨリ各六名(4)財政、經濟仮委員会ヨリ四名都合二十二名ヲ以テ組織スルコトニ決シ(5)以下ハ夫々其内ヨリ選定スル筈ニテ其顔振レ未ダ定マラザルモ(6)ニ關シテハ英ヨリ「フィッシャー」、仏ヨリ「ヴィヴィアニア」(本件委員會議長ニ内定)智利ヨリ「Rivas Vicuna」(ゼネヴァ)總会ニ於ケル同國代表者ノ一人)瑞典ヨリ「ブランチング」(ゼネヴァ)總会ニ於テ第六委員會委員長タリシ(關係上)ヲ入ルルコトトシ而シテ日、伊ノ為メニ各一名ヲ留保シタルガ伊國理事ハ來ル二十八日迄ニ同國委員ノ氏名ヲ通知スベキ旨ヲ述べタリ然ルニ例ニ依リ「パブリンチー」問題ノ關係ヨリ本件委員會ノ顔振レモ速カニ發表シ度キ理事会一般ノ意向ナル處日本委員定マラザル為メ右發表ニ遲延ヲ來タシ甚ダ面白カラザルニ付日本委

備制限等ノ問題ニ關スル件

聯盟軍第六番電
(一月二十八日接受)

二月二十五日聯盟軍事委員會總会ヲ開催シ左記諸項ヲ決議ス

一、國際水路部ニ關スル件

海軍部會ノ決議通り議決ス(第四番電参照)

二、高空觀測ニ關スル件

空軍部會決議通り議決ス(國聯空第三四番電参照)

三、武器売買條約ニ關スル件

二就テハ各部會決議報告後「ラカズ」中將ハ軍備制限問題及兵器民營問題研究ハ相當ノ時間ヲ要スヘントノ海軍部會ノ申出ニ關シ理由ヲ述ヘ且目下聯盟理監事會ナル臨時委員會設置ヲ待ツ(脱)スヘシトノ意見ヲ述ヘ又此ノ委員會ニハ聯盟軍事委員會代表ヲ加フヘク該代表ハ聯盟軍事委員會ニ於テ任命シ聯盟軍事委員會ノ意見ヲ前記委員會ニ提出スル如クスルヲ可トストノ意見ヲ述ヘ伊國海軍代表之ニ同意セリ

而シテ武器売買條約ニ關シテハ陸軍部會決議通り議決セリ即左ノ如シ武器売買問題ノ討議ハ目下開會中ノ聯盟理

商、兵器民営、軍備制限問題ノ三ニシテ兵器通商問題ニ関シテハ英仏白ハ理事会ニテ此問題ヲ討議決定セル以後ニ於テ討議スルヲ至便トスト述ヘ伊国ハ國際管理局ハ其ノ性質上國際聯盟事務局所在地ニ置クヘキモノト述ヘ現在「ブランセル」ニ在ル同種機關ノ利用ヲ希望スルノ意見ニ反対ヲ表明シ西班牙ハ「サン・ゼルマン」条約ニ若干ノ保留ヲ希望シ小官ハ英仏ノ意見ニ同意ヲ表シタル後日下開会中ノ理事会ノ決議ヲ待ツニ決セリ

兵器民営ニ関シテハ仏ハ戦争ニ於テハ從米戦用材料ト呼ヘルモノノミナラス鉄道自動車ニ至ル迄戦争ノ実行ニ関係セサルモノナク又戦時ノ工業動員ヲ顧慮セハ寧ロ平時ニ於テ民営ヲ獎励スル必要アルヘク徒ニ民営ヲ制限スルカ如キハ国防ヲ不利ニ陥ルノ虞アリ「サン・ゼルマン」条約実施ハ間接的ノ効果アルニ過キスト説キ大体民営制限ニ反対シ本問題ハ複雑且至大ナルモノナルヲ以テ理事会ニ告知スルノ必要アリトノ意見ヲ述ヘタルニ対シ

英國ハ大体仏國ノ意見ニ同意ナルモ該條約ハ仏國代表意見ノ如ク戦時ニ利用スヘキ廣汎ナル資材ニ迄及ホスヘキモノト思惟シ難ク其ノ目的ハ民営ノ悪影響ノ防止ト民営製産額

ノ制限ニ関スルカ故ニ各國カ條約ヲ忠実ニ実施シ兵器輸出ニ関シ情報ヲ交換セハ民営ノ悪影響ヲ緩和スルニ効果アルヘントン同條約ノ迅速ナル批准ト実施ヲ希望セリ

西班牙ハ此問題ノ討議ハ軍事委員会ノ任務範囲外ナルモ同條約ノ実施ニ関シテハ一部ノ保留ヲ以テ同意スヘント述ヘ支那ハ英國ノ意見ニ伯刺西爾ハ仏國ノ意見ニ同意セリ

小官ハ國際聯盟ノ精神ハ民営ノ防止ニ非スシテ民営ヨリ生スル悪影響ヲ防カントスルニアリ從テ國際聯盟ニ於テ各国民営ノ情況ト輸出ノ情況ヲ知ルニ非ラサレハ此目的ヲ達シ能ハサルヘク又兵器ノ種類トシテハ斯クノ如キ廣汎ノモノニ同意シ難ク通常戦用材料ト呼ハルヘキモノニ制限スルノ必要ヲ説キ概ネ英國案ニ同意セリ

斯クノ如ク各國ヨリ区々ノ意見出テ去就容易ナラサル情況トナリシヲ以テ英仏両国代表ニ於テ各國ノ意見ヲ参照シ一案ヲ作製シ之ヲ再ヒ部会ノ討議ニ附スルニ決セリ
軍備制限問題ニ関シテハ「ゼネヴァ」會議ノ決議ニ何等ノ変化ヲ加フヘキ情況実現セサルヘキヲ以テ理事会カ此問題

ヲ決議シ諮詢シ來ルヲ待ツトセハ可ナリト云フニ一致セリ

四五六 三月四日 在巴里竹下海軍種垣及靜間陸軍各代表ヨ
陸海外三大臣及軍令部長各宛（電報）

軍事委員会總会ニ於テ兵器民営問題討議ノ件

（三月六日接受）

聯盟軍第一〇番電報

一、三月一日聯盟軍事委員会總会開催ス

第六番電報告要旨

英國陸軍代表及仏國陸軍代表輔佐官ノ提出覚書（國聯軍密第三十番電参照）ヲ議題トシ兵器民営問題ヲ討議ス

白耳義陸軍代表ハ覺書第四条ヲ有効ナリト認ムルコト能ハス寧ロ兵器製造及売買制限ノ目的ヲ以テ各國カ国内法ヲ設クルコトヲ協定スル方却テ好結果ヲ得ラレスヤト提議シ「アラゴアス」白耳義米國等ニ於テ酒精製造販売禁

止ニ關シ国内法ヲ設ケ居ルコトヲ引証シテ国内法設定ノ可能ナルコトヲ述ヘ仏國陸軍代表ハ之ニ対シ酒精ハ全然各國ノ国内的性質ヲ有スルモノナレト兵器ハ其趣ヲ異ニシ隣國ニ於ケル兵器工業ノ存否ニ依リ影響ヲ受クルモノナリ兵器民営禁止ハ各國（聯盟加入國及未加入國全部）

二、聯盟理事会ヘノ報告者左ノ通り定ム

「ダンチッヒ」問題 「ラカズ」中將

國際水路部問題 「シーグレイズ」大佐

高空觀測問題 「ロー・ペー」陸軍大尉

軍備制限問題 「ラカズ」中將

四五七 三月七日 内田外務大臣ヨリ
在蘭國田付公使宛（電報）

國際聯盟軍備縮少委員会本邦委員ニ対スル訓

令ノ件

別電 同日内田外務大臣在蘭國田付公使宛電報第九号
右訓令

第八号

今回貴官國際聯盟軍備縮少委員会ニ帝國委員トシテ出席スルニ付テハ一般訓令トシテ別電第九号ノ通り示達シタルニ依リ右ニ準拠シ処置相成度尚客年九月軍事問題ニ關スル帝國代表者宛訓令石井大使ヨリ通知致スヘキニ付右ノ趣旨御了知ノ上本會議ニ關シテハ常設軍事委員会ニ於ケル陸、海、空軍帝國代表者ト常ニ充分ノ連絡ヲ保チ処置相成度追ツテ貴官ヲ右委員ニ任命ノ件ハ手続後更ニ電報スヘシ在仏大使ニ転電アリタシ

（別電）

三月七日内田外務大臣在蘭國田付公使宛電報第九号

訓令

貴官今次帝國委員トシテ國際聯盟軍備縮少委員会ノ會議ニ

派遣セラルルニ際シ本大臣ハ茲ニ國際聯盟並該會議ニ対ス

ル帝國政府ノ方針ヲ開示シ以テ貴官行動ノ規準ヲ指示セムトス

一、國際聯盟ニ対スル帝國政府ノ方針ハ聯盟至高ノ目的ノ達成ヲ計ルト共ニ五大國ノ一タル帝國ノ地位ヲ確保シ以テ我國運ノ伸張ヲ期スルニ存ス

二、帝國政府ハ戰後日尚淺クシテ國際ノ政局未タ安定ヲ得ス聯盟ノ基礎亦強固ナラサル現下ノ情勢ニ於テハ大國ノ支持アルニ非サレハ聯盟ノ發達得テ望ムヘカラサルコトヲ認ム依テ聯盟内ニ於テ大国側カ特殊優越ノ地位ヲ占ムルニ対シ小國側ニ於テ動モスレハ不満ノ態度ヲ示スカ如キハ固ヨリ理由ナキ所ナリト雖モ之カ対応策ニ付テハ特ニ慎重ナル考量ヲ要スヘキモノアリト思考スルヲ以テ貴官ハ英國其ノ他ノ大国側委員ト連絡ヲ保チ常ニ隔意ナキ意見ノ交換ヲ行ヒ以テ機宜ノ措置ヲ執ルニ力メラルヘク三、會議ノ経過其ノ他重要問題ニ付テハ貴官ハ其ノ都度石井大使ヲ経テ詳細報告又ハ請訓セラルヘク又苟モ帝國ノ外交方針ニ關係アル事項ニ付テハ毎ニ必ス同大使ノ指揮ヲ得タル後措置セラルヘキハ勿論其ノ他ノ事項ニ付テモ

成ルヘク同大使ノ指示ヲ得テ行動セラルヘシ

四、惟フニ會議ノ議事ニ上ルヘキ諸問題中ニハ帝國ノ利害ニ重大ナル關係ヲ有スルモノ歟カラサルヘク帝國政府ハ貴官ノ任務ノ極メテ重大ナルヲ認識シニ貴官ニ信頼シテ所期ノ効果ヲ收メムコトヲ冀望ス

在仏大使ニ転電アリタシ

四五八 三月十六日 在巴里竹下海軍稻垣及靜間陸軍各代表
（ヨリ）
陸海外三大臣各宛（電報）

聯盟規約中軍事關係条項改定問題ニ關シ意見

具申ノ件

聯盟軍一二
（三月十八日接受）

國際聯盟規約改正ニ就テハ三月九日附ヲ以テ伊丹ヨリ発電セラレタルトコロ軍事關係事項ニ關シ本職等一同協議ノ結果ニ付石井理事ニ左ノ通り進言セリ右報告ス

一、規約第一条國際聯盟加入ニ關シ特ニ該條第二項軍事ニ關スル事項ニ於テ現在ノ規約ヲ必要ナリト感ス

二、規約第八条第四項兵器民營禁止及同第五項軍備情報通告ハ日本ニ取り不利益ナルハ論ヲ俟タス然ルニ本問題ニ

九 國際聯盟ニ於ケル軍備制限問題ニ關スル件 四五八

五、規約第十六条經濟封鎖ニ關シテハ特ニ資源貧弱ナル帝國トシテハ「スカンジナビア」三国ノ提議ヲ支持シ之ヲ

九 國際聯盟ニ於ケル軍備制限問題ニ關スル件 国五九 国五九

有効ナラシムルコト最モ必要ナリト信ス

国五九 三月十八日 内田外務大臣宛 (電報)

兵器彈薬ノ輸出狀況ニ關スル報告捷田方興謹

ノ通告ニ關ハ回電方督促ノ件

第一四八号

往電第一四八号ニ關シテハ未ダ何等ノ御回電ニ接セザル処

竹下中將発海軍大臣宛本年一月一十八日附聯盟海機密第四
号ヲ以テ送附ノ軍事委員会関係ノ書類 (Reg. No. N.H.

(P) 1/21) ニ依ンベ武器取引締約ノ調印國及其ノ他ノ
聯盟國ハ全部ニ対シ客年八月二十六日附書面ヲ以テ同委員

会事務官 Jackman ハリ兵器彈薬ノ輸出狀況ニ關スル報告

ノ提出方ヲ要求シタルコト明ナルヲ以テ本邦ニ於テモ選レ
バセナガラ之ニ対スル措置ヲ講ズルノ必要アルベキモ政府

ニ於テハ未ダ正式ニ右書面ヲ接手セザルコト既報ノ通リナ

ルリ付テハ軍代表者トモ御協議ノ上前電報ノ件泊一応御取
調ノ上至急御回電相成度シ

五〇九

三月十八日 在仏國石井大使

内田外務大臣宛

軍事予算制限ニ關スル聯盟總会希望ノ件

大正九年十一月十四日第一回總会決議ノ希望

事項

公第一一五号 (五月一一日接收)

本件ニ關シテハ往電第四〇一一号ヲ以テ一応及報告置候処右
ニ關スル事務總長來翰茲ニ及御送付候條御査取相成度尚本

件カ帝国政府ノ義務ヲ生ゼザル単純ノ希望条項ナルムハ
當時報告ノ通りニ有之候 敬具

(該屬書)

三月八日聯盟事務總長ニ日本代表宛書報

軍事予算制限ニ關スル問合

Monsieur le Président du Conseil,

Le Conseil me charge de transmettre aux Gouvernements de tous les Etats Membres de la Société, le

SOCIÉTÉ DES NATIONS.

VOEUX

adopté par

L'ASSEMBLÉE DE LA SOCIÉTÉ DES NATIONS

le 14 décembre 1920.

vœu ci-joint, adopté à la majorité de l'Assemblée, au sujet de la limitation des dépenses militaires, navales et aériennes pendant les deux années fiscales qui suivront le prochain exercice budgétaire de chaque Etat Membre.

Le Conseil m'a en outre chargé de prier les Gouvernements des Etats Membres de la Société de vouloir bien me faire connaître avant le 1er mai quelle suite ils proposent de donner à ce vœu.

Je saisis cette occasion de prier Votre Excellence de vouloir bien agréer les assurances de ma haute considération.

Eric Drummond.

Le Secrétaire Général.

Son Excellence

Président du Conseil des Ministres
du Gouvernement Japonais.

(該屬書)

大正九年十一月十四日第一回總会決議ノ希望
九 國際聯盟ニ於ケル軍備制限問題ニ關ベニ生 国五九

En attendant le plein effet des mesures concernant la réduction des armements prévue à l'article 8 du Pacte, l'Assemblée émet le vœu que le Conseil soumette à l'examen des Gouvernements la proposition d'accepter l'engagement de ne pas dépasser, pendant les deux années fiscales qui suivront le prochain exercice, le chiffre global des dépenses militaires, navales et aériennes prévues pour cet exercice. Sous réserve qu'il sera tenu compte:

1 de toute contribution d'effectifs, de matériel de guerre, d'argent recommandé par la Société des Nations pour l'exécution des obligations prévues à l'article 16 du Pacte ou dans les Traités enregistrés par la Société;

五〇九

九 國際聯盟^リ於ケル軍備制限詔題^リ閲ベル件 国K I 国K II

2 de tout situation exceptionnelle qui sera signalée au Conseil de la Société des Nations, conformément à l'esprit des paragraphes 2 et 6 de l'article 8 du Pacte.

国K I 四月一日 在仏國石井大使^{ミツバチ} 内田外務大臣宛(電報)

兵器彈薬輸出狀況問合^リ閱スル件

第四九〇号

(四月五日接受)

貴電第一四八号兵器彈薬輸出狀況問合セ方ノ件タル元來羅馬理事會ノ訓令ニ基キ「サンセバスチアノ」ニ於テ軍事委員会限リ決定ノ上右問合セ書發送ノ運ニ至リタルモノナルガ當館ガ聯盟文書受付所タル關係上該書面モ當館経由發送セハシタルモノトセバ當館文書部ニ其ノ形跡アル筈ナルモ何等其跡ナシ依テ我聯盟陸軍部ニ依頼シ取調ぐタル處該書面ハ當時倫敦ニ在リ^ン聯盟事務所ヨリ在当地同支局宛發送セハシ其ノ後ノコト不明ナルモ當館宛發送セハシタルモノナル可シトヘコトニ付早速館員ヲシテ同支局ニ付取調ぐタルニ九月始當館へ發送シタル筈ナリトノコトナルモ當館文書部ニテ接受ノ形跡ナキ以上途中紛失シタルモノト思考スルノ外ナシ尤モ在「ハシネーカ」陸軍派遣員ノ申出ニ基キ

SOCIÉTÉ DES NATIONS

20/31/64.

Sunderland House,
Curzon Street,
Londres, W.I.
le 26 août 1920.

Excellence,

La Commission permanente consultative de la Société des Nations pour les Questions militaires, navales et aériennes a été chargée par le Conseil de la Société des Nations, comme ne l'ignore certaiement pas Votre Excellence, "de demander aux Gouvernements signataires de la Convention sur le Trafic des Armes et des Munitions, du 10 septembre 1919, et aux autres Membres de la Société, les informations nécessaires sur les exportations des armes et des munitions, d'après les principes de l'article XXIII, paragraphe (d), du Pacte et de la dite Convention, y compris son Protocole final, et de soumettre au Conseil les propositions pour la

五二一八

軍事委員会事務官^{ミツバチ}本月二十六日附^リ以テ本使宛改メテ本件書面写送付シ來リタル^リ付別途郵送ス右ノ次第ニテ事務局側^クハ當方ヨリ可然挨拶シ置キタルニ付本件書面ニ閱スル御回答振成ル可ク早日^リ御回示相成リタシ本電報我聯盟軍事代表ト協議済

国K II 四月一日 在仏國石井大使^{ミツバチ} 内田外務大臣宛

兵器彈薬輸出狀況問合^リ閱係書類送付ノ件

公第1五七号

(五月九日接受)

大正十年四月一日

在仏

特命全權大使^{子爵} 石井菊次郎(臣)

外務大臣伯爵 内田康哉殿

武器彈薬輸出狀況^リ閱スル件

往電第四九〇号閲係書類別添差進候條御査取相成度候也

(附屬書)

大正九年八月二十六日附事務総長^{ミツバチ}來翰写

兵器彈薬輸出狀況問合^リ件

En conséquence, le Secrétaire Général de la Société des Nations vous serait reconnaissant de bien vouloir lui faire parvenir, aussitôt que vous le pourrez, les renseignements indiqués ci-dessus. J'adresse une demande analogue aux Gouvernements signataires de la Convention sur le Trafic des Armes, et aux Gouvernements des autres Membres de la Société.

Veuillez trouver ci-joint, au cas où vous désireriez vous y référer, une copie de la dite Convention, ainsi que de son Protocole. Outre les signataires dont les noms figurent dans ce document, le Gouvernement du Brésil l'a signé postérieurement au 10 septembre 1919, en qualité de partie originale à la Convention et au

五二一九

Protocole.

J'ai l'honneur d'être,

de Votre Excellence, l'obéissant serviteur,
Secrétaire à la Commission permanente consultative de la Société des Nations pour les Questions militaires, navales et aériennes.

四六三 四月十五日 井出海軍次官ヨリ

埴原臨時平和条約事務局長宛

軍事予算制限問題ニ關シ聯盟総会ノ希望ニ該否ヲ与フルハ時期尚早ノ旨回答ノ件

四月十五日

官房機密第六一五号

大正十年四月十五日

(四月十六日接受)

軍事予算制限問題ニ關シ聯盟総会ノ希望ニ該否ヲ与フルハ時期尚早ノ旨回答ノ件

四月十五日

官房機密第六一五号

大正十年四月十五日

海軍次官 井出謙治（印）
外務省臨時平和条約事務局長 墓原正直殿
軍事予算制限問題ニ關スル件

客月二十四日附和一機密合送第一六七号ヲ以テ御照会ニ係ル右ノ件ニ対スル當省ノ意見左ノ通りニ有之候條可然御取計相成度

右回答ス

答候也

(別紙一)

軍事予算制限ニ關スル希望条項ニ同意シ得サル理由

聯盟総会ニ於ケル軍備問題ニ對スル第三決議末項軍事予算制限ニ關スル希望条項ハ元來第六委員会（軍備問題担任）

ニ於テ諸威代表ノ提案ニ基キ小國側ノ支援ニ依リ第三決議

第五項トシテ同委員会ヲ通過セシカ総會議ニ於テ仏國代表

ノ強硬ナル反対ニ依リ全会一致ヲ得ル能ハス為メニ決議文

ト切り離シテ希望条項トシ之カ受諾、拒絶又ハ修正ハ全然

各國政府ノ任意トスルノ条件ヲ以テ辛フシテ総会ヲ通過セ

シモノニシテ聯盟総会當時帝國陸、海、空軍代表ハ本案ノ

提議ヲ聞クヤ帝國将来ノ軍備計画ニ至大ノ影響ヲ及ホスヘ

キヲ思ヒ帝國軍備ノ現状並ニ将来ノ企図ニ関シ石井代表ニ

理由ヲ附シ別紙ノ意見ヲ具申セリ

而シテ陸軍ニ於テ右希望条項ニ同意スル能ハサル理由ハ該

意見具申中ニ述ヘ尽セルヲ以テ茲ニ之ヲ再説セス尚右理由

ノ外帝國陸軍軍人軍屬ノ給与ハ數年來ノ著シキ物価ノ騰貴

ニ拘ラス軍事予算ノ關係上極端ナル節約主義ニ依リ列國軍

ニ比シ頗ル粗悪ナル給与ヲ以テ満足スルノ已ムヲ得サル現

記

第一回聯盟総会カ世界ノ平和ヲ維持シ且各国民ノ負担ヲ輕減センカ為ニ軍事予算ニ關シテ聯盟各國政府ニ希望セル事ハ當省ニ於テモ元ヨリ欣然其ノ趣旨ニ賛同シ之ヲ実行スルコトヲ得ソコトヲ庶幾スルモノナレトモ國際聯盟カ目下熱心ニ從事シツツアル具体的軍備制限方法画定ノ完結セサルニ先チ右希望ノ实行ニ對シテ諾否ヲ与フルハ其ノ時機ノ宜ヲ得タルモノニ非スト認ム

四六四 四月十五日 山梨陸軍次官ヨリ

埴原臨時平和条約事務局長宛

軍事予算制限ニ關スル聯盟総会ノ希望条項ニ

大正十年四月十五日

陸軍次官 山梨半造（印）

況ニ在リ故ニ将来之カ改善ヲ計ル為メニハ勢ヒ経費ノ増加ヲ要スルモ若シ本年度ノ軍事予算ヲ基準トシテ将来ヲ束縛セラルルニ於テハ帝國国防上必要ナル兵力ヲ維持シ得サルノ情況ニ陥ルヲ以テ此ノ点ヨリ見ルモ軍事予算制限ニ關スル希望条項ニハ同意シ能ハサルナリ

況シヤ別紙对外理由第二項ニ於テ述ヘアル如ク大戰ニ參加セル列強軍ハ今ヤ戰後ノ整理ニ余念ナキニ際シ帝國陸軍ニ於テハ大戰ヨリ得タル貴重ナル教訓ニ鑑ミ諸般ノ整備ニ着手セントスル現況ナルニ於アラヤ

況ニ在リ故ニ将来之カ改善ヲ計ル為メニハ勢ヒ経費ノ増加ヲ要スルモ若シ本年度ノ軍事予算ヲ基準トシテ将来ヲ束縛セラルルニ於テハ帝國国防上必要ナル兵力ヲ維持シ得サルノ情況ニ陥ルヲ以テ此ノ点ヨリ見ルモ軍事予算制限ニ關スル希望条項ニハ同意シ能ハサルナリ

況シヤ別紙对外理由第二項ニ於テ述ヘアル如ク大戰ニ參加セル列強軍ハ今ヤ戰後ノ整理ニ余念ナキニ際シ帝國陸軍ニ於テハ大戰ヨリ得タル貴重ナル教訓ニ鑑ミ諸般ノ整備ニ着手セントスル現況ナルニ於アラヤ

(別紙二)

右意見具申

軍事費予算制限ニハ極力反対セラレタシ

対外理由

一、國際聯盟未タ完全ナラス米露等ノ大国カ聯盟ニ加入セ

サル今日聯盟加入國カ軍備制限ノ実行ニ着手スルハ不合理ナルノミナラス実施不可能ナル事項ナリ而シテ本件ハ常設軍事委員会ニ於テ既ニ同様ノ決議ニ到達シ居ルモノナリ

九 國際聯盟ニ於ケル軍備制限問題ニ關スル件 四六四

五四二

戰前ニ於ケル平時狀態ニ復シアラサルヘシ故ニ此予算ヲ以テ若干年間ノ軍事費ヲ律スルハ不合理ナリ

三、物価ノ高低不安定ナル現下ノ狀況ニ於テ明年度軍事費予算ヲ以テ制限スルハ次年度以後ニ於テ各國ノ成シ得ル

軍備ノ程度ニ不均衡アルヲ免レス是レ軍備制限ノ本旨ニ悖ルモノナリ

四、現下ノ狀況ニアリテハ列國ノ保有スル兵器軍需品等ハ精粗一樣ナラス此ノ如キ時機ニ於ケル軍事費予算ヲ以テ将来ヲ律セントスルカ如キハ適當ナラス

五、終リニ臨ミ軍備制限ノ如キ大問題ハ仮令其端緒ニモセヨ明年度軍事費予算ノ如キ簡単ナルモノヲ以テ解決ン難キモノナルコトヲ再言ス

対内理由

一、明年度予算ヲ以テ将来ヲ律スルカ如キニ立到ラハ帝国海軍ハ國家ノ安全ノ為メ必要ナル最少限度ノ兵力ヲモ整備スルコト能ハサルノミナラス艦型ノ撰択武装ノ改善等ハ得テ之ヲ望ムヘカラス

二、戦後軍制ノ改革ハ一日モ緩フス可カラサルモノアルモ予算ノ關係上先ツ海軍ノ整備ヲ先ニシ次ニ陸軍ノ整備ヲ

行フノ大方針ノ下ニ計画セラレアルヲ以テ明年度軍事費予算ヲ以テ将来ヲ律セラル如キハ帝国軍ノ忍ヒ得ル所ニ非ス

三、陸軍ノ目下企画シツタル技術部隊（鐵道電信其他）ノ充実整備、砲兵隊ノ編制改正、歩兵以外諸隊ノ在營期短縮、兵器ノ改良整備、被服ノ改正、要塞ノ整備等各般ノ予算ハ漸ク其頭ヲ現ハシタルノミナリ

四、帝国陸海軍航空隊ノ現況ハ極メテ貧弱ニシテ陸軍ニ於テハ航空大隊既設三、編成中ノモノ一、海軍ニ於テハ横須賀航空隊ヲ有スルニ過キス然ルニ歐洲大戰ノ経験ニ鑑ミ将来我陸海軍航空隊ハ平時ニ於テ最小限度現兵力ノ十數倍ヲ保有スルニ非サレハ戰時陸海軍ノ作戦ニ協同シテ其任務ヲ達スルコト能ハサルノ状況ニアリ若シ夫レ帝國カ明年度以降軍事費予算ニ制限ヲ加ヘラルニ於テハ遂ニ予期ノ編成ニ到達スル能ハスシテ極メテ貧弱ナル現状ニ停リ戰時陸海軍ト協同ノ実ヲ挙クルコト殆ント不可能ニ陥リ国防上一大欠陥ヲ釀スニ至ルヘシ

表ニ關スル件

四六五 四月二十三日 内田外務大臣ヨリ

在仏國石井大使宛（電報）

軍事予算制限ニ關スル總会ノ希望事項ヲ實行
スルコトハ時機宜シキヲ得ザル旨回答ノ件

第三七八号

一、貴電第四〇一二号第一回聯盟總会ノ希望事項タル軍事予算制限ニ關シ帝国政府ノ意図左ノ通り事務總長ニ回答アリタシ

二、帝国政府ハ世界平和維持ノ為聯盟ノ理想ニ遵由シ各國相共ニ軍備縮少ノ目的ヲ達成セントラ衷心ヨリ希望セ

ルモ國際聯盟理事会カ聯盟規約ニ依リ目下銳意講究シツアル軍備縮少案ノ完成セサルニ先チ軍事予算制限ニ關スル聯盟總会第一回會議ノ希望事項ヲ実行スルコトハ時機ノ宜ヲ得タルモノニ非スト認ム

註 本電二八四月二十六日附和一機密合送第一六六号ヲ以テ陸海軍次官各宛通牒済

聯軍第一四号

（五月十三日接受）

常設軍事委員會ヨリ軍備縮少ニ關スル臨時混成委員會（Temporary Mixed Commission on Disarmament）ニ選出セル各國軍事代表左ノ如シ

日本陸軍代表稻垣中將英國海軍代表補佐官 Segrare 大佐仏國陸軍代表元帥 Fayolle 伊國陸軍代表少將 Marietti 西班牙海軍代表少將 Marquis de Magaz 「ブラジル」海軍代表大佐 Penedo

四六七 五月十三日 在巴里陸海空軍代表ヨリ

田中陸軍大臣宛（電報）

軍事費予算制限問題ニ對スル各國回答及仏國

反対ノ理由報告ノ件

聯軍一五 （五月十六日接受）

軍事費予算制限問題ニ對スル各國政府ノ回答中今日迄ニ判明セルモノ日本、仏國、白耳義、丁抹、南阿、印度、芬蘭及「セルブ、クロアート、スロヴェーナ」、瑞西國ナリ

九 國際聯盟ニ於ケル軍備制限問題ニ關スル件 四六五 四六六 四六七

五四三

定スルノ基礎ヲ有セサルモノトシテ反対ノ回答ヲ送レリ其理由トスル所左ノ如シ

一、軍事費予算ハ國家ニヨリ其編成法ヲ異ニス
之ヲ改正若クハ修理スル場合ニ於テ予期シ難キ経費ノ増加ヲ要スルコトアリ

三、製造費及維持費ハ不定ニシテ之カ為年々著シク予算ノ增加ヲ惹キ起スコトアルヘシ然レトモ之ヲ以テ直ニ軍備増加ヲ意味スルモノト認メ難シ

四、国防軍備ハ所謂戦闘用器材ニノミ依ルニアラスシテ產業能力及平和的材料ヲ軍事用的ニ使用シ得ル否トニ依ルモノトス然ルニ軍備能力ニ欠クヘカラサル此ノ要素ハ國防軍予算ニ依リ調査シ得ルモノニアラス

五、社会經濟軍事上等諸種ノ原因ニ基ク例外ノ情況現出スル場合アルヘシ而シテ斯クノ如キ緊急重大ノ情況現出スルニ際シ某國家ニ其判断及決定ノ権利ヲ放棄スヘキコトヲ要求スルハ過重ナリ
其他ノ政府ノ回答ノ要旨左ノ如シ
白耳義ハ國際聯盟總会ニ於ケル軍備制限ニ関スル希望事項

ノ保留条項ヲ条件トシテ之ニ贊同シ

丁抹政府ハ今後二ヶ年間軍事費予算ヲ増加スル如キコトナルヘシトテ贊意ヲ表セリ之ニ反シ英國、芬蘭ハ該國軍備ノ現況ト地理的位置ニ「セルブ、クロアート、スレヴェーク」ハ現時ノ國際的 situation ニ鑑ミ贊意ヲ表シ難キヲ回答セリ而シテ南阿政府及印度政府ハ目下尚審議中ニ属シ回答シ得サル旨ヲ述ヘタリ

四六八 五月十九日 在米國幣原大使ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

聯盟理事会ノ提案ニ對スル日本政府ノ回答ヲ

米紙論評ノ件

第二八七号 （五月二十日接受）

五月十九日「パブリック、レッヂャー」及「ワシントン、ポスト」ニ同月十八日在「ジュネーブ」特派員発電トシテ日本政府ハ軍備拡張二年間停止ニ關スル聯盟理事会ノ提案ニ對シ其ノ精神ニ贊同ヲ表スルモ未だ之ヲ採用シ得ル期ニ到達セザル趣回答セル處之日本ガ先づ製艦計画ヲ完了シ然ル後軍備拡張ヲ停止セントスル意見ヲ示スモノナリトノ記事ヲ掲載シタリ

四六九 五月二十八日 在巴里陸海空軍代表ヨリ
田中陸軍大臣宛（電報）

軍事費予算制限問題ニ關スル聯盟事務総長ノ

要請ニ關シ請訓ノ件

聯空一八 （五月三十日接受）

軍事費予算制限問題ニ關シ聯盟事務総長ハ四月二十五日發

書面ヲ以テ委員會議長ノ請ニ応シ軍事委員會ニ代表ヲ有スル國ニ對シテハ其代表ヲ通シテ本国政府ニ代表ヲ有セサル

第一、各國陸海空軍予算ニ關スル詳報ノ通報

第二、尚該件予算ハ本国軍隊及殖民地軍隊等ニ區別スルコト
ヲ以テセリ

之ヨリ先キ聯盟事務総長ハ軍事委員會議長三月二十一日發書面ヲ以テ軍事委員會ニ請フニ

第三、各個別々ニ軍事予算ノ審議ヲ公平ナラシムル為予算
編成方式及備付諸集積物ヲ研究準備センコト
ヲ以テセリ

四七〇 六月一日 井出海軍次官ヨリ
埴原外務次官宛
國際聯盟事務総長ニ回答スヘキ軍事予算ニ關
スル件
官房第二〇四六号
大正十年六月一日
(六月三日接受)

海軍次官 井出謙治（印）

外務次官 堀原正直殿

右ニ關シ在巴里常設軍事諮詢委員會帝國代表者ノ去五月二十八日發聯空一八電ニ對シ別紙ノ通り及答電置候

右通知ス

（別紙）

六月一日井出海軍次官ヨリ在仏大角海軍少將宛電報
事務總長ニ回答スヘキ軍事予算額及説明ニ關スル件

九 國際聯盟ニ於ケル軍備制限問題ニ関スル件 四七一 四七二 四七三

五四六

官房第七五番電報

聯盟事務総長ニ回答スヘキ予算ハ貴電ノ通り官報ニ発表セ

ル數額ニ依ルコトシ若要スレハ右予算額ハ現有兵力ノ維

持及既定計画ノ実行ニ必要ナル範囲ヲ出テサル旨ノ説明ヲ

附セラルヘシ又本年度臨時軍事費ハ半ニ西班牙及太山東及
南洋方面ノ警備並ニ南洋ノ民政費ニノミ充当セントスルモ
ノナリ本電空軍代表ニモ伝ヘラレタシ

四七一 六月九日 在巴里陸海軍代表ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

第五回常設軍事委員会ノ開会日及議題ニ關ス

ル件

聯軍第二二 (六月十日接受)

第一 第五回常設軍事委員会ハ六月二十一日「ゼネヴァ」

ニ於テ開催ノ事ニ決定ス

第二 該會議ニ於ケル主要ナル議題ハ軍備上共通ノ様式ヲ
各國政府ニ送達スル件軍事費予算制限問題ニ對スル各國政
府ノ回答審議兵器彈薬取引ニ関スル「サン・ゼルマン」條
約批准ニ對スル各國政府ノ回答審議旧敵国軍備調査ノ件ニ
關スル委員ノ任命経費ノ分担及兵器民營問題ナリ

聯軍第二七号

(六月二十四日接受)

軍事費予算制限問題ニ関シ西班牙及太利政府ハ左
ノ如ク回答セリ

一、西班牙ハ總テノ國家間ニ於テ一致セル方法ニ依リ軍事
費ヲ減少セントスル企図ニ関シテハ贊意ヲ表スト雖モ該
希望条項ハ所望ノ目的ヲ達成スルニ最モ適當ナル方法ト

認メ難シ蓋シ輿論ハ公平ニ一国ノ軍備兵力ヲ表示スルモ
ノニ非サレハナリ又該縮少ハ數多ノ諸國カ之ニ贊同スル
ニ非サレハ実施スヘカラサルモノナリト思考ス

二、塊地利ハ「サンゼルマン」条約ニ依リ其陸、海、空軍
兵力ヲ規定セラレアルヲ以テ該希望条項ヲ壞國ニテ希望
セス

三、濠太利ハ希望条項ノ保留条件ニ準拠シ全然該希望条項
ノ精神ニ贊同ス

在ジュネーヴ竹下海軍船塲及静間陸
軍各代表ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

第四回常設軍事委員会總会ニ於テ軍備狀況通

報様式軍事費予算制限問題各國回答ノ審議等
二関スル件

四七四 六月二十一日

九 國際聯盟ニ於ケル軍備制限問題ニ關スル件 四七四

四七二 六月十一日

杉山陸海空軍代表ヨリ
田中陸軍大臣宛(電報)

軍事予算制限問題ニ關シ英國政府回答ノ件

聯軍二三

軍事費予算制限問題ニ關シ英國政府ハ左ノ如ク回答セリ

英國政府ノ政策ハ國際聯盟總會ノ採用セル希望条項ノ精神
ニ全然一致シ既ニ我政府ハ其後空軍ニ關スル経費ニ對シテ
大削減ヲ行ヒ且今後二ヶ年ニ於テ一層経費節減ヲ實行シ得
ヘシト予期ス

但シ本政策ハ元ヨリ希望条項中ニ記載セル保留条件ニ從
フヘキモノトス又同時ニ英國政府ハ國際聯盟總會ノ希望
条項カ他ノ諸國ニヨリテ採用セラレサル場合ニ於テハ此
政策ハ更ニ之ヲ再考セサルヘカラサルコトヲ指摘セサル
ヲ得ス

四七三 六月二十一日 在巴里陸海空軍代表ヨリ
陸海外三大臣宛(電報)
軍事費予算制限問題ニ關シ西班牙及太利及濠
太利各政府回答ノ件

聯軍二五

(六月二十三日接受)

第一 軍備狀況通報様式ヲ各國政府ニ發送スル件
仏國海軍代表「ラカズ」中將ノ提議ニ基キ左ノ如ク決議ス
常設軍事委員会ハ昨年十二月軍備狀況報道ニ關シ未ダ其時
期到来セザルモノトシテ理事会ノ考慮ヲ導キタル諸理由特
ニ總テノ諸強國ハ未ダ聯盟ニ加入セズ且全世界ヲ通ジテ未
ダ鞏固ナル平和ノ恢復ヲ見ルニ至ラザル事實ハ今尚依然繼
続セルモノト思考ス

第一 軍事費予算制限問題ニ關スル各國政府回答ノ審議
本問題ニ對スル各國政府(日本、南亞弗利加、濠太利、
西班牙、芬蘭、佛蘭西、「グアテマラ」、印度、伊太
利、諾威、和蘭、「ルーマニア」「セルブ・クロアート・ス
ローヴェース」)回答ノ要旨ヲ朗説シタル後英國陸軍代表ハ
常設軍事委員会ハ本問題ニ關シ其意見ヲ發表スペク要求セ
ラレザリシコトヲ述べ全員之ニ贊同シ第三問題ニ入ル
第三 兵器通商條約批准ニ關スル各國政府ノ回答審議

九 國際聯盟ニ於ケル軍備制限問題ニ関スル件 四七五

五四八

本問題ニ関スル各國政府（白耳義、伯刺西爾、支那、芬蘭、仮蘭西、和蘭、「ルーマニア」、暹羅）回答ノ要旨ヲ朗讀シ伊太利、仮蘭西及西班牙代表ハ各々自國政府ノ為説明スル所アリタル後事務官ハ日下聯盟事務總長ハ白耳義政府ノ回答ニ基キ國際中央局ニ關スル覚書ヲ作成中ナルヲ以テ理事会ニ於テ之ヲ討議ノ後軍事委員会ニ附議セラルニ至ルベシト述べ第四問題ニ入ル

第四 旧敵国軍備調査権問題

本問題ハ旧敵国ニ對スル條約実施業務漸次終了ノ時期ニ入レルモノアル為之ニ連繫シテ将来ニ於ケル旧敵国軍備調査実施業務ニ關シ準備セントスルモノニシテ英國航空軍代表「グローブス」大佐ハ本問題ニ關シ平和條約実施監督委員ヨリ其最後ノ報道ヲ受クルコト並ニ最高會議首相會議大使會議及ビ連合軍事會議ノ決議中本問題ニ關スル事項ノ記録ヲ交付セラルルノ必要ナルコトヲ説キ結局「グローブス」大佐ハ本問題ニ關スル決議案ヲ起案スルコトトナリ當日ノ會議ヲ終レリ

明二十二日第二回會議ヲ開ク筈ナリ尚今回ノ會議ノ議事日程ハ聯軍第二二号ヲ以テ電報セル事項ノ外第一新ニ聯盟加

聯軍二九

兵器製造問題ニ關シ常設軍事委員会カ理事会ニ提出セシ報告ノ要旨左ノ如シ

第一兵器製造販賣及軍輸ニ關スル問題

(1) 「ダ」市領土ニ於テ各種ノ武器弾薬及戰用器材ノ製造販賣ヲ禁ス

(2) 右器材ノ運搬及一時の貯藏ハ予メ理事会ノ同意ヲ得ルニアラサレハ之ヲ禁ス
(3) 「ダ」市領土内ニ存在スル外国ノ戰用器材問題ニ關シ諸監督委員会カ決定的ニ之ヲ取極ル迄ハ高級委員ハ如何ナルモノカ戰用器材ナルヤ否ヤニ關シテ大使會議ノ与ヘタル提議ヲ参考トスヘシ

入ヲ申シ込メル洪牙利國ノ陸海軍兵力第二「ダンチヒ」自由市領土内ニ於ケル戰用器材ノ製造販賣貯藏運搬ニ關シ討議スル筈

四七五 六月二十四日 在ジュネーヴ陸海空軍代表ヨリ

常設軍事委員会カ理事会ニ提出セシ兵器製造問題ニ關スル報告要旨ノ件

(七月二一日接受)

兵器製造問題ニ關シ常設軍事委員会カ理事会ニ提出セシ報告ノ要旨左ノ如シ

第一兵器製造販賣及軍輸ニ關スル問題

(1) 「ダ」市領土ニ於テ各種ノ武器弾薬及戰用器材ノ製造販賣ヲ禁ス

(2) 右器材ノ運搬及一時の貯藏ハ予メ理事会ノ同意ヲ得ルニアラサレハ之ヲ禁ス
(3) 「ダ」市領土内ニ存在スル外国ノ戰用器材問題ニ關シ諸監督委員会カ決定的ニ之ヲ取極ル迄ハ高級委員ハ如何ナルモノカ戰用器材ナルヤ否ヤニ關シテ大使會議ノ与ヘタル提議ヲ参考トスヘシ

(4) 前述ノ条約及協約ニヨリ波蘭ハ「ダ」市ヨリ其ノ戰用器材ヲ輸入輸送スルノ權利ヲ有ス波蘭ヲシテ自由市ニ對シ此ノ權利ヲ實施セシムル為メ此等器材ノ通過及取扱ノ為メ自由市ヨリ充分ニ遠隔シ且ソ孤立セル場所ヲ波蘭ニ附与センコトヲ希望ス

(5) 民間航空器材ノ製造ハ國際聯盟理事会ノ許可ヲ得テ高級委員ノ監督下ニ之ヲ行フコトヲ得猶ホ第四項ノ波蘭ニ讓与ス可キ位置ニ關シテハ仏白、伊西班牙、伯刺西爾代表ハ嘗テ独逸領ニシテ其讓与ニ關シテハ追ツテ分配委員会ニヨリ決セラル可キ「ダ」市東側「ペスチュア」中ニ在ル「ホルム」等ヲ適當ナル場所ナリトノ意見ニ合致セリ蓋シ該地點ハ同時ニ波蘭ニ讓与セラレタル監視哨艦隊ノ維持給養及碇泊所タルコトヲ得可レハナリ

四七六 六月二十五日 在ジュネーヴ竹下海軍稻垣及靜間陸軍各代表ヨリ

内田外務大臣宛（電報）

軍事委員会總会ニテ洪牙利國兵力ノ審査兵器民營問題等討議ノ件

聯軍第三二号 （六月二十七日接受）

二十四、二十五兩日ニ亘リ常設軍事委員会總会ヲ開催ス其會議ノ情況左ノ如シ

第一、二十四日軍事委員会ハ

(1) 兵器民營問題
(2) 高級委員ハ（脱）ノ隸下ニ置テ可ナルモノヤ否ヤヲ決ス可キ權威者タリ

第二、「ダ」市高級委員ノ權能ニ關スル問題

(1) 高級委員ハ（脱）ノ隸下ニ置テ可ナルモノヤ否ヤヲ決ス可キ權威者タリ
(2) 高級委員ハ自由市領土ニ於ケル戰用器材ノ存在ニ關シテハ所有者ノ如何ヲ問ハス絶エス「ダ」市政府ヨリ報

九 國際聯盟ニ於ケル軍備制限問題ニ關スル件 四七六

五四九

九 國際聯盟ニ於ケル軍備制限問題ニ関スル件 四七七

等ヲ討議ス即チ

(一)匈牙利國陸海空軍兵力ニ関シテハ該國ノ陸海空軍兵力

ハ千九百二十年六月四日「トリアノン」條約ニ依リ規

定セラレアルヲ以テ軍事委員会ニ於テ之ヲ審査スルノ

必要ヲ認メスト決議シ(二)兵器民營問題ニ関シテハ軍事

委員会ハ更ニ進ンテ該問題ヲ審議スルニ先チ臨時混成

委員会ノ研究セル結果ノ通牒ヲ待ツコトニ決議シ各軍

部會議長ニ関シテハ支那代表ノ海軍部會議長タルコト

ニ付多少ノ議論アリタル後遂ニ陸軍部會議長ハ英國代

表海軍部會議長ハ支那代表空軍部會議長ハ仏國代表ヲ

選定シ遂ニ今回ノ総会決議事項ニ関シ理事会ヘノ報告

者ヲ英國陸軍代表「クライブ」大佐及建川騎兵中佐ニ

指定シ当日ノ會議ヲ終レリ

第二、二十五日軍事委員会ハ次期総会議長トシテ支那代表

陸軍少將梁上棟ヲ推薦シ之ヲ以テ今回ノ軍事委員会ヲ閉

会セリ第六回軍事委員会ハ臨時混成委員会ニ於テ特別ノ

要求ナキ限りハ恐ラク九月初ニ於テ開催セラルルコトト

ナルヘシ

以前ニハ吾人ハ之ヲ予断スルヲ得ズ

二、六月十八日諾威ノ回答

同國ハ陸海軍費（空軍費ハ各々陸海軍費中ニ含ミ其額ヲ記

セズ）ニ關シ昨年度（昨年七月一日ヨリ本年六月三十日

迄）及本年度經常臨時費ノ各別總計額ヲ計上通報シタルニ

過ギズ其大要次ノ如シ

昨年度陸軍經常臨時合計約四千二百万「クーロン」（四一

〇〇〇〇〇〇）本年度約三千七百万（三一七〇〇〇〇〇〇）

（議会ニ提出中）昨年度海軍經常臨時合計約二千万（二一〇

〇〇〇〇〇〇）本年度ハ經常約千八百万（一八〇〇〇〇〇〇〇）

〇）ナルベク（臨時費ハ目下迄提出ナシ）尚同國ハ国外ニ

軍隊ヲ有セザルコトヲ記シ終リニ昨年度臨時費ハ大戰間同

トヲ附記セリ

本邦陸空軍予算ニ關シ往発第一七八号ヲ以テ事務局ニ回答

方指示アリタルモ元來本問題ハ其性質上臨時混成委員会ノ

模様ニ依リ回答スルヲ至当ト考ヘアリシ関係ト目下迄ノ回

答国及回答振本電ノ如クナルヲ以テ差当リ回答ヲ差控ユル

コトトセリ御承知ヲ乞フ

九 國際聯盟ニ於ケル軍備制限問題ニ關スル件 四七七

五五〇

四七七 七月十一日 在ジユネーヴ竹下海軍靜間及稻垣陸軍

内田外務大臣宛（電報）

陸海空軍予算通報ニ關スル仏國及諾威政府

回答要旨ノ件

附記 四月二十日附 Jean Gout 公使ヨリ國際聯盟事

務總長宛回答和訳文

軍事費予算制限問題ニ對スル仏國政府ノ回答ノ件

聯軍第三三三号

五月二十八日聯軍第一八号ヲ以テ報告セシ各國陸海空軍予

算通報等ニ關シ仏國及諾威政府ハ事務總長宛左ノ要旨ノ回答ヲ為セリ

一、四月三十日仏國回答

（七月十三日接受）

各國間ノ予算ヲ比較スベキ何等ノ意図ヲ含ミ居ラザル聯盟

総会ノ希望ト去ル三月二十一日軍事委員會議長ニ對シ為セ

ル各國ノ予算比較研究ヲ目途トスル貴官ノ提案トノ間ニハ

明瞭ナル區別ヲ存セルコトニ對シ貴官ノ注意ヲ喚起セント

ス故ニ聯盟總会若クハ理事會ノ指示アラザル限り研究方案ヲ採決スルハ臨時混成委員會ノ任ニシテ該會ノ集会セザル

ノ件

二、四月三十日諾威回答

（附記）
四月二十日附 Jean Gout 公使ヨリ國際聯盟事務總長宛回答和訳文
軍事費予算制限問題ニ對スル仏國政府ノ回答ノ件

國際聯盟加入各國カ次年度ニ次ク二ヶ年間陸海空軍費ヲ制限スルノ件ニ關シ千九百二十年十一月十四日聯盟總會カ多數決ヲ以テ採用シタル希望事項ヲ去三月八日附ヲ以テ移牒シ

シ仏國政府カ該希望事項ヲ如何ニ処置スヘキヤヲ聯盟理事會ノ名ヲ以テ照会セラレタル處共和國政府ハ該問題熟考ノ後前述各國ノ提供スル陸海空軍予算ハ次ニ列挙スル理由ニ依リ各國ノ軍備程度ヲ公平ニ判定スルノ基礎ヲ有セサルモノト思惟ス

一、軍事費予算ハ國家ニ依リ其編成法ヲ異ニス

二、國家カ其兵力又ハ戦用器材ヲ增加スルコトナクシテ之ヲ改正シ若クハ戦用器材ヲ修正スル場合ニ於テ予期シ難キ経費ノ増加ヲ要スルコトアルヘシ

三、製造若クハ維持費（原料、労力等）ハ不定ニシテ年々

著シク予算ノ増加ヲ惹起スルコトアルヘシ然レトモ是レ

必シモ軍備ノ増加ヲ意味スルモノニアラス

四、現今ニ於テハ國家ノ陸海空軍力ハ所謂戦用器材ノミニ

九 國際聯盟ニ於ケル軍備制限問題ニ關スル件 四七八

五五二

抛ルモノニアラスシテ其産業能力及ヒ予メ改變ヲ要スルト否トヲ問ハス平和的材料ノ殆ント全部ヲ軍事目的ニ利

用シ得ルト否トニ抛ルモノトス而シテ國家ノ軍備能力ニ欠クヘカラサル此要素ハ陸海空軍予算ノ調査ニ依テ確メ得ルモノニアラス

五、最後ニ社会、經濟、軍事上等ノ各種ノ原因ニ基ク例外ノ狀況現出シ得ル場合アリ聯盟總会ハ其希望事項ノ中ニ

之ヲ予期シアリト雖モ單ニ之ヲ聯盟理事会ニ提議シテ其熟考ヲ求ムルニ過キス緊急重大ナル性質ヲ有セル此種ノ狀況ニ於テ其國家ニ對シ其判断及決定權ヲ放棄スヘキコトヲ要求スルハ過重ナルヘシ

故ニ予ハ共和国政府カ到達スヘキ目的ニ適合セサル如ク思考セラル基礎疑ハシキ希望事項ヲ実行ニ至ラシムルコトヲ得サルモノト思惟スル旨ヲ貴官ニ通報スルノ名譽ヲ有ス「ジュネーヴ」ニ於テ仏國代表者カ該動議ニ對シ投票セサリン所以亦茲ニ在リトス

尚共和国政府ハ本回答カ聯盟規約ニ規定セル義務ヲ避ケントスル意志ナル如ク解釈セラレサル様特ニ希望ス蓋シ該義務ノ實行ハ聯盟總会モ其必要ヲ認メタル或種条件ノ予メ実

五、相互監督即チ

a 聯盟加入国間ノ軍備情報交換

b 規約第八条ノ情報相互見証

六、軍事予算制限

(三)陸海空軍縮少ノ一般的審議

四七九

七月十八日 在仏國石井大使ヨリ

内田外務大臣宛(電報)

第一回混成委員会議長演説委員会組織軍備制限一般討議ニ關シ報告ノ件

第一〇九三号 (七月二十日接受)

田付公使ヨリ

第一号

七月十六日午前十時ヨリ仏國「アトミン」ニ於テ臨時軍備制限混合委員会開会

議長「ヴィヴィアニ」氏ノ外委員二十一名其国籍ハ日、英、仏、伊、智利、瑞典、西、伯刺西爾、羅、白、蘭、希、加奈陀、印度、「チェック」ノ十五国ニ分レ常設軍事

諮詢委員会ヨリ六名 members civils 六名臨時經濟委員会

九 國際聯盟ニ於ケル軍備制限問題ニ關スル件 四七九

現セラルヲ繫要トセリ

之ニ反シ共和国政府ハ「ジュネーヴ」ニ採用セラレタル第3決議ニ記載シアル主義ニ忠実ニシテ軍備縮少ノ行路ニ決然進ミ入りタルコトヲ指摘セントス即チ國際的義務及國家

ノ安全力課スル軍事的責任甚重大ナルニ拘ラス兵役年限短縮ノ為メ提出セル法律案ハ之ヲ証明スルニ足ルモノト謂フ

ヘシ

四七八 七月十三日 在巴里竹下海軍中將ヨリ

内田外務大臣宛(電報)

第一回混成委員会ノ議題ニ關スル件

聯軍第三五号 (七月十五日接受)

七月十六日巴里ニ開催ノ混成委員會議題左ノ如シ

(一)常設軍事委員会理事会聯盟總会ノ已ニ研究ヲ開始セル左記諸問題

一、兵器専用材料民營

二、兵器彈薬通商

三、兵器通商監督中央局制

四、調查權

一、委員会ノ組織

(1)常設軍事諮詢委員会ニ提出ノ諸問題

(1)彈藥並戰鬪材料民營ニ關スル問題

(2)兵器及彈藥通商問題

(3)武器通商ニ關スル國際監督局設置問題

五五三

(2) 敵国調査権問題

(a) 相互間情報ノ交換（脱）

(b) 联盟国間情報ノ交換

(2) 軍事費ノ制限
(b) 联盟規約第八条ノ情報ニ関スル相互精査

三、陸海空軍軍備制限ニ関スル一般討議

議長ノ提議ニ依リ日程ヲ変更シ會議ハ第三項軍備制限ニ
関スル一般討議ヨリ始マリ議長ハ議事方法トシテ軍備制
限ニ関スル一般討議ヲナサシムル為報告主任者ヲ選定シ
各種詳細事項ニ付テハ分科会ヲ設ク可キコト其他ヲ提議
シ英國委員ハ議長ノ提議ニ賛成シ同時ニ議長自ラ報告者
ノ任ニ当ランコトヲ提議シ且右報告中ニハ米國大統領ノ
提倡セル華盛頓會議ヲ認諾シ軍備制限ニ関シテハ陸海軍
別々ニ之ヲ論議スベキコト独逸ノ聯盟ニ入ルヤ否ヤハ軍
備制限問題ヲ決スルニ大關係アルコト其他武器通商ニ関
スル協約ノ批准ニ關シテハ華盛頓會議ニ提出センコトヲ
提議スルノ外ナル可ク武器製造ニ關シテハ米國ニモ相
談スル必要アル可ク情報交換並ニ監督ニ關シテモ充分審
議ヲ要ストノ諸点ヲモ記入スペント云ヘリ

伊国委員ハ軍備制限問題ニ關シテハ一、国防上、二、植民
地關係、三、国内ノ公安保持ノ三要点ヲ基トシテ立論セザ
ル可ラズト論ジ尚軍備予算制限問題ニ關シ单ニ各兵力ヲ數
字上ヨリノミ比較スルニテハ不充分ナリ種々他方面ヨリ考
究セザルベカラズトシテ其ノ類例ヲ示シ結論セリ右ニテ第
一回會議ヲ終ル

四八〇 七月十八日 在巴里稻垣陸軍中将ヨリ
内田外務大臣宛（電報）混成委員会第一回會議ニ於テ議事方法及軍備
制限問題総括審議報告ノ件

国聯陸第十五号

（七月二十日接受）

七月十六日混成委員会第一回會議ハ議事方法及軍備制限問
題ヲ總括的ニ審議セリ議長「ヴィヴィアニ」ハ其ノ開会ノ
辭ニ於テ委員一同ハ理事会ノ委任ニ依リ集会シタルモノニ
シテ所謂國際的委員トシテ全ク自由ニ討議センコトヲ希望
シ且ツ米國大統領ノ華府會議ニ關スル Initiative ヲ称揚セ
リ又委員ハ發言中殆ド皆之ニ唱和セリ特ニ英國委員「フィ
ッシャー」ハ米大統領ノ發意ヲ目シテ規約第二十一条ノ改
正案ニ適応シ且ツ聯盟組織ノ精神ニ一致スト述ブ経過ノ概
要次ノ如シ

議長ハ先づ一般的ニ軍備制限問題ヲ考察シ次イデ若干ノ分
科会ニ附託センコトヲ提案シ英委員 Fisher ハ兵器通商問
題ニ一分科会ヲ設ケンコトヲ述べ且ツ兵器通商條約実行上
ノ障碍ハ米國ノ未ダ批准セザルニ在ルヲ以テ一般批准問題
ハ之ヲ華府會議ニ附シ更ニ兵器民営問題ノ為メニ一分科会

ヲ設ケ情報交換及見証問題ハ歐州世界ノ政局安定ヲ待テ審
議スベシト述ブ伊国委員 Shantue ハ兵器通商及民営ヲ合
シテ一分科会トシ戰前及大戰後ノ各国軍備統計作製ノ為メ
一分科会ヲ設ケントシ議長ハ再び軍人ヲ議長トスル軍事分
科会別ニ一統計分科会ヲ設ケンコトヲ提議シ次イデ智利委
員ハ規約第八条第一項ノ為メニ一分科会同第五第六項ノ為
メニ各一分科会ヲ設ケンコトヲ提案セシモ共ニ之ガ決議ヲ
次回ニ延期シ直チニ一般軍備制限問題ノ討論ニ入レリ
「フィッシャー」ハ自己ノ意見ト前提シ英國ニテハ陸軍ニ
対スルト同様ナル予算審議ハ之ヲ英國海軍ニ適用シ難キヲ
覺ニ蓋シ海軍ニ於テハ人員及武器ヨリモ寧ロ艦船ノ種別ヲ
考察スルヲ要スレバナリト述べ Shantue ハ軍備制限上ノ
根拠ハ（一）國土防禦（二）殖民地及屬領防禦（三）国内公安維持ニ關
シ本問題審議ノ基礎ヲ之ニ置クベキコトヲ述べ更ニ軍事予
算額ナルモノハ一國軍備トノ比較ニハ不充分ナリトノ理由
ヲ附シテ解説シニ關スル自己ノ腹案ヲ提示スペシト述べ
第一回ノ會議終レリ

九 國際聯盟ニ於ケル軍備制限問題ニ關スル件 四八〇

四八一 七月十九日 在仏國石井大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

混成委員会第一回会議軍備制限一般審議統報

並第三回会議分科会討議報告ノ件

第一〇九四号 (七月二十一日接受)

田付ヨリ

第二号

七月十七日午前十時第一回会議

議長 Viviani 氏前日ニ引続キ一般討議ヲ始ム「チエコスロバック」委員ハ資本代表トシテ工業ハ戦後改造ノ大任ヲ負フモノニシテ戦備ト國家ノ援助アリテ初メテ安ンジテ其任ヲスルコトヲ得此点ニ於テ軍備制限ノ必要アル旨ヲ説キ大体ニ於テ英伊両国委員ノ説ニ賛成シ兵器彈薬民營ヲ可トセリ労働代表者(仏國委員)ハ戦争終結當時労働階級内ニ永久的平和熱盛ニナリシモ今ヤ其ノ熱ノ冷退スル情勢ヨリ説キ起シ此國際聯盟ハ軍備制限ノ実行ニ歩ヲ進メテ斯ノ如キ情勢ヲ挽回スルニ力メザル可ラザルヲ力説シ英伊仏「チエコ」委員等ノ所説ニ批評ヲ加ヘ其ノ説ク所何レモ微温的ニシテ今一層積極的且有効的ノ行為ニ出デザル可ラズ

ト論ジ聯盟國相互監督ヲ必要トシ此目的ヲ達スル為聯盟規約第八条ノ改訂ヲナスヲ可トシ一ノ分科会ノ設立ヲ提議シ次ニ弾薬及戰闘材料ニ関シテハ聯盟規約第八条ノ目的ヲ達成スル為一ノ國際會議ヲ開キ國際條約ヲ結ブニ若カズト為シ之亦一ノ分科会ニ委託セソコトヲ提議セリ

同委員ノ説ニ関シテハ英「チエコ」各委員ヨリ弁駁スル所アリ同委員又之ニ答ヘ以テ一般討議ヲ終ル

同日午後五時ヨリ第三回会議

分科会ニ関シ討議ノ結果左ノ如ク決ス

第一分科十六日日程第二項(イ)(ロ)(ハ)ノ事項

第二分科会(乙)及相互監督聯盟國間情報交換

第三分科統計事項

而シテ労働代表ノ提議ニ係ル第八条改訂問題ハ第二分科会ニ國際會議問題ハ第一分科会ニ分属セシム
稻垣代表及本官ハ第二分科会ニ出席スルコトナレリ
最後ニ議長ハ特別一般報告者ヲ選定スルノ必要ナカル可キ旨ヲ告ゲ各分科会ノ結果ヲ議長綜合報告スレバ夫レニテ足ル可シト述べ次ニ会議ヲ終ル

四八二 七月十九日 在仏國石井大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

第二分科会ニ於ケル敵國調査権問題等ノ見通

シニ閣スル件

第一〇九五号

(七月二十日接受)

ヲ見タル件

別電 七月二十一日在巴里稲垣中將堯内田外務大臣宛
電報國聯陸第一七号別電

第三分科会ノ業務指針トシテ採用サレタル各國
代表提案

国聯陸第一七号

(七月二十二日接受)

七月十八日午前十一時第二分科会開会敵國調査権問題ニ關シテハ軍事委員会ノ決議ニ基ク理事会回答ノ結果ヲ待タザル可ラズ其ノ他ノ問題ニ關シテハ聯盟規約第八条改訂問題之ニ関連シ居ルヲ以テ右改訂案ノ効果ヲ審査シ其結果ニ依リ更ニ之ヲ聯盟規約改正委員会ニ回送スルノ順序トナルベシ就テハ來ル九月聯盟總会迄本分科会ハ延期スルコトトナレリ尤モ「ブルジョア」氏ヲ促シ一ノ提案ヲ為サシムル筈(千九百十九年三月二十一日和平會議ニ於ケル國際聯盟委員会「プロセ・ヴェルバール」「第十号第二頁同第十一号第九頁参考」)

四八三 七月二十日 在巴里稲垣陸軍中將ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

混成委員会第三回会議ニ於テ三分科会ノ設立

九 國際聯盟ニ於ケル軍備制限問題ニ関スル件 四八二 四八三

概要次ノ如シ
議長ハ開会ト共ニ分科会ニ閣スル自己ノ提案ヲ各委員ニ配布シ各分科会ノ業務ニ付テ所要ノ解説ヲ加ヘ尙前電仏國「デューオー」ノ提案タル相互監督問題ハ規約ノ改正ヲ必要トシ之ガ起案ニ任ス可キ一分科会ノ設立ヲ要スル件ハ之ヲ第二分科会ニ審議ヲ附託ス可ク尚同人ノ提案タル兵器民營ニ對スル國際會議ノ招集ニ閣スル件ハ之ヲ第一分科会ニ附託シテ可ナル可シト諮リ且ツ第三分科会ノ業務指針トシテ伊國「シャンチュー」及ビ英國「フィッシャー」提出ノ各提案(別電ニテ報告ス)ニ付右兩人ノ意見ヲ吐露セシメタル後比較的実行容易ナル「フィッシャー」案ノ採用希望ヲ

述べ「シャンチュー」案ハ業務参考資料トシ度キ旨ヲ述べ一同異議ナク之ニ賛成シ茲ニ三分科会ハ其ノ担任業務案ト共ニ前電ノ通り成立セリ次デ議長ハ各分科会ノ委員配合ヲ議シ各委員ノ分科会採択ノ自由ヲ得セシメンガ為メ一時会議ヲ中止シ各委員ノ相談ニ委セ更ニ開会ノ後次ノ如ク任命セリ本職ハ英仏委員ト打合セノ後第二分科会ニ入レリ第一分科会陸軍若クハ海軍二人政治二人經濟若クハ財政一人資本労働各一人計七人

第二分科会政治三人陸軍若クハ海軍二人經濟若クハ財政一人資本労働各一人計八人第三分科会經濟若クハ財政三人海軍二人政治労働資本陸軍各一人計九人以上總計二十三人（委員定員二十二人ナルモ仏國元帥「ファイヨール」同時ニ二分科会ニ入りシ關係上一人増加セリ）終リニ議長ハ明十八日各分科会集会ス可キモ茲ニ一時の訣別ニ際シ特ニ各位ニ對シ聯盟ガ吾人ニ与ヘタル名譽アル委任ニ負カザルコトヲ望ミ来ル九月聯盟總会ノ開会ト共ニ催ス可キ我カ委員会總会ニ於テ各分科会ハ報告ヲ提出セラル可ク我カ委員会ハ之ヲ審査ノ後理事会ニ提出ス可ク次デ聯盟諸國ニ對シ検証ノ位置ニ立タム事ヲ期スト述べ更ニ将来ノ協力ヲ冀フ

ト共ニ今日マデノ助力ヲ謝スト結ビタリ各分科会ノ情況ハ之ガ明瞭トナルヲ待チテ報告ス可シ

七月二十一日在巴里稻垣陸軍中將發内田外務大臣宛電報國聯陸第一七号別電

第三分科会ノ業務指針トシテ採用サレタル各國代表提案

國聯陸第一七号別電

混成委員会第三分科会（統計分科会）ノ業務指針トシテ英國「フィッシュ」ノ提案次ノ如ク國際委員会之ヲ採用スルニ決セルコト前電ノ如シ

二、大戰前及ビ大戰後各國（脱）スル財政負担

三、各國ニ於テ公表スル軍事予算ニ依リ知リ得ベキ軍備ニ

閔スル國家支出程度

前電所報第三分科会ノ業務資料トシテ採用セラタル伊國「シャンチュ」ノ提案次ノ如シ一九一三年及ビ一九二一年會計年度ニ於ケル次ノ諸点ヲ示ス表ヲ各國毎ニ作成スル為一分科会ヲ設ク

一、國家總予算ノ部分ヲ為セル各種ノ軍事支出即チ陸軍海軍及ビ其他ノ予算ニ含有セラレアル陸軍（軍事的諸編成

例ヘバ國境税關隊ノ如キヲ含ム）海軍及ビ陸軍ニ属スル有ラユル支出並ニ地方予算ニ含メル有ラユル軍事支出以上ハ國家防禦ニ充ツル支出ト国内公安維持ニ充ツル支出トニ区别ス

二、全現役兵数是ガ國家ノ人口及ビ其國土面積トニ對スル比例

三、有ラユル軍事上ノ準備要素即チ軍事財産ヲ其価格数量ヲ以テ示ス（要塞艦船航空材料武器彈薬馬及ビ驃馬被服裝具糧秣戰略鐵道等）

四、戦用貨材生産ニ供スルコウシキ業全部ノ生産能力並ニ全然軍事上ノ目的ニ供用シ得ベキ主要原料ノ貯蔵料

五、各国經濟力ヲ構成スル公私ノ富力即チ國民所得ノ總額國家ノ收稅資源支出總額公債額等而シテ議長ハ第三回会議ニ於テ本問題ヲ議セル際「フィッシュ」ノ案ニ次ノ文句ヲ附加スルコトヲ提議シ委員会ハ之ヲ可決セリ文句次ノ如シ

是等統計上ノ諸要素ニ附加スルニ國家ノ安全ニ関連スル

各国ノ状態ヲ考察スルヲ要ス第三分科会ノ業務ニ関シテハ早晚聯盟事務局ト及ビ各國政府ニ對シ所要ノ通報ヲ求

九 國際聯盟ニ於ケル軍備制限問題ニ関スル件 四八四

ムルニ足ルベシサレドモ其軍ノ機密ニ閔スルモノハ政府ニ於テ通報ヲ保留シ得ルハ勿論ナリトス

在巴里稻垣陸軍中將ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

四八四 八月五日

混成委員会第一分科会ニ於ケル兵器通商、同
民營問題討議概要報告ノ件

（八月七日接受）

国聯陸第二二号

誤ニ付訂正ス

本電及国聯陸第二十二号第二十三号ヲ以テ正ントス

混成委員会第一分科会ハ英國 Fisher ヲ議長トシ智利國 Rivas Vicuna ヲ副議長トシ七月十八日其第一回ヲ同十九日第二第三回会議ヲ開キ兵器通商同民營問題ヲ討議セリ概要次ノ如シ

第一回会議兵器通商條約批准問題ニ閔シ委員会事務官 Atolico 教授ハ分科会ニ於テ異議ナクハ同批准ヲ聯盟總会以前ニ各國政府ニ懇意スヘク同時ニ今日迄未回答ノ政府ニ對シテハ其國ノ聯盟總会代表者ヲ通シテ總会ニ於テ回答ヲナス如ク要求センコトヲ述ヘ伊國 Mariotti 少将ハ大部ノ

九 國際聯盟ニ於ケル軍備制限問題ニ関スル件 四八四

五六〇

政府ハ批准ヲナスノ準備ニアルモ其ノ条約施行ノ期ハ一二
各國政府ノ等シク之ヲ批准スルノ条件ニ附帶セル旨ヲ述ヘ
聯盟総会ハ宜シク之ヲ議スヘク之カ為所要ノ材料ヲ提供ス
ヘシト述フ Atolico 教授ハ戰用兵器ト普通兵器トノ差別ニ
関シ分科会ノ意見ヲ徵シ各種ノ議論アリタル後議長ハ之ヲ
常設軍事委員会ニ諮ルヘク動議シ次テ中央局ノ組織問題ヲ
討議シタル後他日ニ移スコトニ決セリ兵器民營問題ニ関シ
Jouhaux ハ依然國際會議ノ開催國際協約等ヲ固執シ Fisher
ノ代理 Smith ハ規約第八条兵器民營ヨリ生スル弊害等ノ
意義漠然タルモ追テ之ヲ確定スルヲ要スト述ヘ二三論議ノ
意義漠然タルモ追テ之ヲ確定スルヲ要スト述ヘ二三論議ノ
後解散ス

第一分科会第一回會議ニ於テ Jouhaux ハ世界ニ擾乱ヲ來
ス原因ヲ支持セントスル個人若クハ集團ノ用ニ兵器及戰用
材料ノ製造ノ利用セラルコトハ不徳義ニシテ今日世界特
ニ歐洲ニ於テ現時ノ混亂狀態ノ持続ヲ利益ト認ムル集團ノ
存スルコトヲ指摘シ次ノ提案ヲナス

分科会ハ
一、混成委員会ヲシテ規約第八条第五号ノ實行的方法探究
ノ為國際會議ノ招集ヲ聯盟総会ニ要求セシム

第一分科会第三回會議ニ於テハ第二回會議ニ於ケル両提案
ノ相違ニ対シ採決ス
Jouhaux ノ提案ハ三対三ニシテ議長ハ保留ス
次テ

Smith 提案ノ採決ニ移リ議長同提案第一項ヲ次ノ如ク修正

ス

一、右ノ非義ヲ除キ其弊害ヲ避クル為兵器非生產國ノ需要
及其安全並ニ一層忌ムヘキ弊害更ニ重大ナル困難ノ發生

ヲ避クルノ利益アルコトヲ考慮シ適宜採ルヘキ手段

右修正案ニ対シ採決シ四対一保留ニテ可決ス議長ハ一方
Smith 他方 Jouhaux ハ於テ混成委員会總会ニ其手段ヲ報
告スヘキコトヲ求メ Smith ハ兵器通商條約ニ対シテハ報

告スヘキモ分科会ノ意見相違ヲ來セル兵器民營ハ之ヲ報告

スルヲ得スト述フ為ニ次ノ如ク報告者ヲ任命シ第一分科会
ノ會議結了ス

一、兵器通商條約ニ関スル報告ハ Smith

一、兵器民營ニ關シ國際會議ノ招集ヲ必要トスル報告

Jouhaux

三、右ニ關シ國際會議ヲ必要トセサル報告 Hodack

九 國際聯盟ニ於ケル軍備制限問題ニ關スル件 四八五

二、前項要求ヲ含ミ且規約ニ記述セル兵器民營ヨリ生スル
重大ナル非義忌ムヘキ弊害竝ニ兵器非生產國ノ特殊位置

ヲ開設セル報告ヲ聯盟総会ニ提出ス
Hodack ハ戰用兵器ノミノ製造工業ハ其ノ數少ク大工業ハ
多クハ戰用普通武器ノ製造ヲ併セ行ヒ Jouhaux ノ言ノ
如ク是等ノ企業カ必シモ世界ニ擾乱ヲ來ストハ信シ難シ
ト述べ英國 Smith ノ提案ニ同意ス

其提案次ノ如シ
一、規約第八条記述ノ兵器及戰用材料民營ノ重大ナル非義
竝同民營ヨリ生スル忌ムヘキ弊害ノ成立ノ審査

二、右ノ非義ヲ除キ其弊害ヲ避クル為兵器非生產國ノ需要
及其安全ヲ考慮シ適宜採ルヘキ手段竝ニ其手段ノ齊スヘ
キ結果
次テ Jouhaux ハ分科会ハ世界ノ工業竝各國政府ニ對シ其
意思ヲ實行セシムルノ力ナク獨リ國際會議ノミ之ヲ能クシ
得ヘシト飽ク迄自案ヲ主張シ若干ノ之ニ対スル反駁アリテ
会ヲ終ル

四八五 八月六日 在巴里福垣陸軍中將ヨリ
内田外務大臣宛 (電報)

混成委員会第二分科会ニ於テ調査権情報交換 相互検証等ノ問題審議報告ノ件

国聯陸第二二号 (八月七日接受)

混成委員会第二分科会ハ七月十八日 Viviani 仮議長ノモト

ニ開会シ

一、調査権問題

二、情報交換相互検証問題

三、規約改正ニ関スル Jouhaux ノ提議

ヲ議題トシテ審議セリ其概要次ノ如シ

一、調査権問題

議長ハ本件ニ關スル聯盟ノ責任ハ平和條約実施監督委員ガ
旧敵國武装解除ノ状態ヲ聯盟ニ申シ告ク可キ時機ヨリ始マ
ルモノナル事ヲ分科会ニ於テ認メンコトヲ提議シ分科会ハ
之ヲ可決セリ

二、相互検証問題

議長ハ本問題ハ Jouhaux ノ提議ト密接ナル關係ヲ有シ規
約ノ改正ヲ前提トスルモノニシテ之ガ為メニハ先ツ規約改

正案ヲ必要トスル旨ヲ述へ尚各種ノ改正案ヲ得ル方法トシテ一方混成委員会ノ各委員中ノ希望者ニ之ガ提出ヲ求ムルト共ニ他方 Léon Bourgeois 氏カ平和會議ニ於ケル條約文編纂ノ際之ト略ホ同一意味ノ提議ヲ為シタルコトアルヲ理由トシテ同氏ニ之ヲ本分科会ニ提出ス可キ事ヲ依頼スルヲ可トスル旨ヲ述べ異議無ク可決ス次テ議長ハ軍備予算制限ニ関スル報告ヲ事務局ヨリ提出セシメン事ヲ提議セリ最後ニ分科会ハ本議長ニ Viviani 氏ヲ推薦シテ閉会セリ

四八六 八月六日 在巴里稻垣陸軍中將ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

混成委員会第三分科会ニ於ケル各國統計事項

討議及決議ノ件

国聯陸第一三号（八月八日接受）

混成委員会第三分科会會議ノ経過左ノ如シ

第一、第一回會議ハ「シャンゼル」司会ノ下ニ七月十八日開会各國ニ提出方要求ス可キ統計事項ニ付討議ス
議長ハ本分科会サンギョウ基礎トシテハ「フィッシャー」案ニ依ルコト為リ居ルモ「シャンゼル」案（国聯陸第一七号別電参照）ヲ以テスルモ何等不可無キ事軍事支出ノ統計ハ

第二、十九日第二回會議ヲ開キ議長ハ各國ノ予算及ビ兵力ニ関スル書類ヲ蒐集スルノ必要アルヲ説キ Atolico ハ混成委員会事務局ヲシテ之ニ当ラシム可シト提議可決ス次テ議長ハ本決議ノ大要ヲ敷衍シ蒐集ス可キ書類ハ一九二二会計年度ノ為メ議會ノ決議セル陸海軍予算各省總予算ニ関スル報告及ビ議事録並ニ陸海軍ノ編制ニ関スル法律等ナル可キ旨ヲ可決ス

第三、十九日第一項ノ小委員会開会各國ニ要求スペキ統計事項案ヲ討議シ左ノ如ク決議ス

一、委員会ハ各國ノ兵力及軍事費ニ關シ正確ニ知悉スルハ規約第八条ニ依ル軍備制限問題着手ノ為欠クベカラザル先決事項タルヲ認メ平時ノ軍事状態ニ付統計調査ヲ為サントス

軍艦裝備海軍用航空機

四八七 八月二十日 在蘭國田付公使ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

混成委員会第一回分科会ニ於テ兵器通商条約問題討議ノ件

（八月二十一日接受）

一、本調査ハ一九一三及一九二二会計年度ニ係ルモノニシテ左ノ如シ
a 国家総予算ノ部分ヲナセル各種ノ軍事支出即チ陸軍海軍或ハ其他ノ予算ニ含有シアル陸軍（軍事的諸編成ヲ含ム）海軍及空軍ニ属スル有ラユル支出竝地方予算ニ含メル軍事支出以上ハ特ニ国内ノ公安維持トシテ指定セルモノヲ區別ス
b 一九一三年及一九二二年ニ於ケル陸軍海軍本国軍植民地軍ノ兵員及團体數右兵員中ニハ特ニ公安維持ニ充當セラルモノヲ包含セシム且ツ國際義務履行ニ要スルモノ及國家ノ安全ニ必要ナルモノトヲ區別ス
c 平時陸軍海軍用材料即チ陸軍ニアリテハ火砲、小銃、機関銃、「タンク」、陸軍用航空機、海軍ニアリテハ

ニ諧リ伊国「マリエチイ」少将ハ政府ノ多數ハ批准ノ急ヲ

九 國際聯盟ニ於ケル軍備制限問題ニ關スル件 四八七

明示セルモ条約ノ実施ガ他国政府ニ於テ一樣ニ之ヲ適用ス
ルヲ条件トスルヲ以テ總会ニ於テ宜シク之ヲ審議スベシト
言ヘルニ「オットリコ」氏ハ更ニ白國ハ本件ニ關シ専用兵
器ト應用兵器トノ区別ヲ明ラカニセん事ヲ求ムル旨ヲ述べ
結局本区別問題ハ常設軍事委員会ノ議ニ附託セラルル事ト
ナレリ國際監督局設置問題ハ之ヲ延期シ更ニ兵器彈薬民營
問題ノ討議ヲ始メ「ジュボー」氏ハ本件ニ關シテ國際會議
ノ必要ヲ繰返シ規約第八条ノ民營ヲ危險トスル意義ニ關
シ「ジュボー」氏ハ寧ロ民營反対主義ヲ採リ Hodocz 氏
(チエッコ)ハ防禦ノ地位ニ立チテ意見交換ノ後第一回会
議ヲ終ル

四八八 八月二十三日 尾野陸軍次官ヨリ

在巴里稻垣陸軍中將宛 (電報)

軍事予算制限問題ニ關シ訓令ノ件

聯空一八軍事予算制限問題ニ關シテハ左記各項ヲ參酌シ官
報ニ發表セル程度ヲ標準トシ静間少將ト協議ノ上事務局ニ
回答スヘシ

一、本年度陸軍總予算陸軍航空予算ニ關シテハ歐発一一一一
ニテ静間少將宛回答セリ但シ第四項陸軍、航空隊ノ将来

ニ関スル企劃ハ公開ヲ避クヘシ

二、第一質議ニ對シテハ臨時軍事費ハ全ク臨時の性質ヲ有
スル意味ニテ經常費ト切り離シ公開ヲ避クルヲ可トス

三、第二質議ニ對シテハ帝國陸軍ハ殖民軍ヲ有セサル為メ
内地ヨリ兵員ノ派遣其ノ他ニ關シ比較的多額ノ経費ヲ要
スルコトヲ弁明スヘシ

四、第三質議ニ對シテハ陸軍總予算中ニハ陸軍費ノ外馬政
局費航空局費(總予算ノ1.7%)ヲ含ミ又陸軍費中ニモ憲
兵費廢兵院費靖國神社寄附金(陸軍費ノ1.8%)等一般的
國家事業ニ屬スル経費ヲ含ミ且ツ物価騰貴ノ關係上陸軍
現在ノ内容ニ比シ總予算額著シク膨張シアル点ニ付列強
ノ諒解ヲ得ルコトニ努ムヘシ

四八九 八月二十六日 在仏國石井大使ヨリ

内田外務大臣宛 (電報)

軍備制限問題ニ關シ細目ニ亘リ心得ベキ事項

第一三五六号

稻垣竹下静間ヨリ聯軍第四一号

(八月二十七日接受)

聯盟總会及軍事委員会ハ九月五日ヨリ開会スルコトトナリ
ノ諒解ヲ得ルコトニ努ムヘシ

タル処同會議ニ於ケル軍備制限問題ニ對スル帝國代表以下

ノ態度ハ九年九月二十七日附貴大臣訓令ノ趣旨ニ基キ爾後
ノ經過ニ顧ミ機宜ノ処置ニ出ツヘキハ當然ノ次第ナルモ更
ニ十一月中旬華盛頓ニ於ケル軍備制限問題ニ對スル帝國政
府ノ態度ガ前記ノ訓令ノ趣旨ト大ナル差異アルニ於テハ當
方會議ニ於テモ自ラ顧慮スヘキ点ナカルベカラズト信ゼラ
ルルヲ以テ閣下發在仏大使宛第七十九号訓令ハ拝承セルモ
尚細目ニ亘リ(脱字)アルニ於テハ承ハリ置キタン

右ハ會議モ差掛リ居ル次第ニ付至急御回電ヲ請フ

四九〇 八月三十日 在蘭國田付公使ヨリ

内田外務大臣宛 (電報)

第二回軍備縮少混成委員会開催ニ關スル件

第九一號 (九月一日接受)

軍備縮少混合委員会九月一日開会ノ通知ニ接シタルニ依リ
本使八月三十日出發巴里經由瑞西ニ出張ス

四九一 九月一日 尾野陸軍次官ヨリ

在巴里稻垣陸軍中將宛 (電報)

陸軍及空軍制限問題ニ關シ日本側ノ執ルヘキ 態度ニ付訓令ノ件

九 國際聯盟ニ於ケル軍備制限問題ニ關スル件 四九〇 四九一 四九二

五六五

聯軍四〇返陸軍軍備制限問題ニ關シ華府會議ニ於テ帝國ノ
執ルヘキ態度ハ昨年十月二十七日附訓令ト大ナル差異ナシ
唯陸軍兵力ハ既定計画ヲ廢棄シテ概ね現状ニ制限スル迄ノ
懸引ハ全權ニ委任セラルヘク予想ス右御含ミ迄ニ、又空軍
ニ關シテハ其ノ後何等確定セルモノ無シ
静間ニ伝ヘヨ

四九二 九月六日 在ジュネーヴ聯盟總会代表ヨリ

内田外務大臣宛 (電報)

軍備縮少混成委員会第二分科会ニ於テ調査權

實行問題ニ關シ討議ノ件

第四七号 (九月八日接受)

田付公使ヨリ

第一号ノ一

九月二日午前軍備縮少混合委員会第一分科会開会本回ヨリ
ハ竹下中將稻垣中將ニ代リテ本官ト共ニ出席ノコトトナレ
リ議長 Viviani 不參ニ付同氏ノ代リニ仏國代議士 Noble
maire 出席予テ Atolico 幹事ヨリ Noblemaire ヨ議長ニ
推薦方本官ニ相談アリタルニ付 Atolico 開会前ニ Noble
maire ヨ紹介シ次テ本官ハ Viviani 二代リ同氏ニ於テ第

九 國際聯盟ニ於ケル軍備制限問題ニ関スル件 四九一

五六六

二、分科会ノ議長タラムコトヲ申出デ其結果同氏議長席ニ著キタリ當日日程第一調査権ニ閔スル報告要領左ノ通り
報告冒頭ニハ独塊洪牙利「ブルガリヤ」ハ連合各国トノ条約ニ依リ何時ニテモ聯盟理事会調査ノ求ニ応ゼザルベカラザルコトヲ述べ次テ

一、理事会ハ常設諮詢委員会（今後ハ C.P.C. ルスグシ）カ理事会ノ委託ヲ受ケ調査権実行ノ場合ノ手続ヲ定メタル C.P.C. ノ報告ヲ可決シ右手続ニ依レバ C.P.C. ニ委員ヲ派遣シ居ル各國ヨリ各一名ノ委員ヲ出シ之ニ依リ一ノ委員会ヲ組織シ右委員ニハ各國カ予メ指名シ置クベキ名簿中ヨリ選ピタル若干ノ専門委員ヲ附属セシムルコト [1] Comité Militaire Interallié de Versailles (今後 C.M.I.V. ルベマシ) 千九百一十一年一月十九日ノ決議ニ基キ其監査事業ノ結果ニ閔スル報告ヲ C.P.C. ニ提出シ C.P.C. ハ右ニ基キ一ノ報告書ヲ作成シ之ヲ理事会ニ提出シ十九百一十一年六月二十八日同理事会ハ採択ヲ得タリ右報告書ニハ C.M.I.V. ニ提出ノ書類並 Commissions de Contrôle Interalliées (今後 C.C.I. ルベマシ) ノ作業ニ閔スル各種書類ノ採択ヲ決議シ置クコト

在米大使ヘ転電シ在歐州各大使ヘ郵報セリ

四九二 九月六日 在ジュネーヴ聯盟總会代表ヨリ 内田外務大臣宛（電報）

混成委員会第一分科会ニ於テ相互監督ニ關ル聯盟規約第八条改正問題ニ付討議ノ件

（九月八日接受）

田付ヨリ

第一号ノ二

日程第一相互通監督即チ規約第八条改正ノ件ニ閔シテハ別電甲号 Bourgeois (仏國) 及乙号 Oudegeest (蘭) ノ両提案アリ議長ハ本問題ハ頗ル重要問題ニシテ聯盟總会切迫ノ折柄充分ニ研究ノ余暇ナク且順序トシテ先以テ規約改正委員会ノ意見ヲ聞クノ必要アルベク分科会トシテハ單ニ右両提案ヲ受領セルダケニ止メ原則問題ニ閔シテハ委員会總会ニ

九 國際聯盟ニ於ケル軍備制限問題ニ閔スル件 四九三

五六七

三、調査権実行ノ委任ヲ受ケタル場合其實行ヲ速ナラシムル為財政上ニ閔シ執ルベキ手段ニ就キ予メ研究シ置クノ必要ヲ C.P.C. ョリ理事会ニ注意セル結果理事会ハ千九百二十一年六月二十七日 C.P.C. ヲシテ書記局員ト協力シ右研究ヲナサシムルコト並ニ必要ノ場合ニハ經濟財政委員会ノ意見ヲモ徵スペキコトヲ決議セルコト

四、故ニ理事会ハ既ニ何時ニテモ其必要ヲ認メタル場合調査権実行ノ準備ヲ整フルモノト言フヲ得ベシ而シテ調査権ニ閔シ理事会ニ与ヘラレタル権限ハ一般的ニシテ Versailles 条約ガ有効ナル間ハ何時ニテモ理事会ハ右ニ從テ行動スルコトヲ得然ルニ目下ノトコロニテハ平和条約中軍事ニ閔スル条項ニシテ其實行ガ或一定ノ期間ニ限ラルモノニ対スル監視、C.C.I. ニ一任サレ理事会ハ C.C.I. ガ成立シ居ル間之ト共ニ協同シテ自ラ調査ノ衝リタル後ニ理事会ハ自然ニ右 C.C.I. ノ後ヲ繼ギ其権限職務ヲモ等シク継承スル可能ヲ生ゼシムルノ虞ナシトセズ然ルニ C.C.I. ノ権限並調査事項ニ閔シテハ Versailles

提出シテ其意見ヲ定メ其詳細ニ亘リテハ規約改正委員会ト協同シテ本会ニ提出スベキ改正案文ヲ定ムル為今後ノ研究ニ讓ルコトナス外道ナカルベントノ意見ヲ述べ可決セリ右ニ閔シ本官ノ聞ク所ニ拠レバ右提案ハ既ニ規約改正委員会ニ提出セラレ同委員会ニ於テハ本件ニ閔シ先以テ軍事委員会及び混合委員会ノ意見ヲ求ムル順序トシ結局本委員会ニ廻付シ來リタルモノノ由ニテ自ラ互ニ責任ヲ讓リ合フノ形アリ殊ニ本件ニ閔シ本委員会總会ニ於テ Noblemairae 第二分科會議長トシテ自ラ説明ノ任ニ当リ前段分科會決議ノ趣旨ヲ敷衍シ本問題ニ閔シテアル Oudegeest ハ勿論 Branting ハ意見ヲ聞キ得ザルハ遺憾ナルノミナラズ順序トシテ C.P.C. ノ意見ヲモ聞ク必要アルニ依リ第二分科会ニ於テ何等決定ヲ採ラズ之ヲ其盡委員会總会ニ提出シタル次第ナリト説明セリ茲ニ於テ委員会總会ハ再ビ本問題ヲ他ノ適當ノ委員会ニ廻送スルコトシ可決セリ

在米大使ヘ転電セリ在歐各大使ヘ郵送セリ

註 別電甲号及乙号省略

四九四 九月六日 在ジユネーヴ聯盟總会代表ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

軍事費予算制限ニ關スル各國政府回答ノ件

第四九号 (九月七日接受)

田付公使ヨリ

第一号ノ三

日程第三

軍事費予算制限ニ關スル各國政府回答ノ件(在蘭公使発第

八十二号末段参照)ニ付報告アリ各國政府回答數二十七之

ヲ左ノ如ク分類ス

一、 奥匈及勃牙利ノ(不明)条約ニ依リ此ノ二國ノ軍備状

態ヲ規定シアルニ依リ本件ニ関係ナシ

二、 瑞典「ブラジル」南亞弗利加ノ三国ハ不得要領

三、 七個ノ回答ハ總会ノ希望ヲ容レザルモノノ如シ就中西

仏両国回答中ニ説明セル理由ニ依レバ予算ナルモノハ兵力

ニ対スル的確ナル事實ヲ説明スルモノト言ヒ難シント芬蘭

及波蘭ハ各其ノ地理的及政治的特別ノ地位ヲ理由トシ希臘

ハ土耳其戦時状態ニ在ルヲ理由トシ「セルブ、クロアーテ、スロヴ

ト、スローヴェン」国ハ現在ノ國際關係上直ニ何等ノ手段

其他ノ国ハ回答ヲ与ヘズ

特ニ歐州諸國ノ関係ヲ見ルニ

a 奥匈両国ハ条約ニ依リ軍備狀態ヲ規定セラレ

b 英、白、蘭、丁、伊太利、羅馬尼ハ多少ノ留保ノ下ニ

總会ノ希望ヲ容レ

c 西、仏、芬蘭、波蘭、「セルブ、クロアーテ、スロヴ

エン」、希臘ハ希望ヲ容レズ

要スルニ總会會議ノ結果ニ基ク本調査ハ其ノ期待ニ副ハザ
ルモノト言フヲ得可ク回答ノ多数ハ大体ニ於テ總会希望ノ
精神ニ副フ如クナルモ一般的政治狀態ノ不安ニ駆ラレツツ
アルモノト言フヲ得可シ

在米大使へ転電シ在欧各大使へ郵報セリ

四九五 九月六日 在ジユネーヴ聯盟總会代表ヨリ 内田外務大臣宛(電報)

軍縮混成委員会ニ於テ第二第三両分科会作成

ノ報告書討議ノ件

第五〇号 (九月八日接受)

田付ヨリ第一号

九月二日軍備縮少混合委員会開会 Viviani 不參 Schanzer

(伊)議長席ニ着ク之ヨリ先第一分科第三分科モ又各々会議

ヲ重ネ其報告書ヲ本委員会ニ提出ノ筈ナリシ處第一分科ハ

未ダ報告書ヲ完成スルニ至ラズ(不明)日迄延バスコトト

ナリ第二分科第三分科ノ分ニ付討議ヲ始ム第二分科ノ分ニ
就キテハ

一、 軍備予算制限問題ニ關シ Fisher ハ留保付ニテ總会ノ
希望ヲ容レタル諸國中例ハ仏國ノ如ク屢々軍事費ノ削

九 國際聯盟ニ於ケル軍備制限問題ニ關スル件 四九五 四九六

四九六 九月八日 在ジユネーヴ聯盟總会代表ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

軍備縮少混成委員会ニ於テ第三分科会報告中 ノ各國政府ニ提出スベキ質問書ニ付討議ノ件

第五八号 (九月十日接受)

田付ヨリ

希望ヲ容レタル諸國中例ハ仏國ノ如ク屢々軍事費ノ削

九 國際聯盟ニ於ケル軍備制限問題ニ關スル件 四九五 四九六

ヲ執ルコト能ハズトイ日本ハ理事会ガ軍備撤廃案ノ研究ヲ
終ラザル間ハ一ツノ協定ヲ為スハ機宜ニ適セズト為セリ

四、 十五個ハ總会ノ希望ヲ容レタリ「ボリビヤ」「ガテマ
ラ」支那ハ全然右ニ同意シ白、濠州、加奈陀ハ留保ヲ為シ
テ承諾シ英國、伊太利、印度、土耳其、新西蘭ハ他國ノ承

諾ヲ条件トシ蘭國ハ上記ノ条件ニ加フルニ物価ノ昂騰ニ基
キ又ハ避ク可ラザル社会的カイリュウノ為ノ予算ノ膨張ハ

聯盟ノ提議ニ反対スルモノト認メザルコト及武器ノ改良進

歩ヲ計ルハ總会ノ希望中 situation spéciale の条件ニ適合
スルモノト認ム可シトノ条件ヲ附セリ丁抹、諾威、羅馬

尼、智利ハ別ニ的確ノ約諾ヲ為スコトナク單ニ軍備予算ノ
増加ヲ計ル意志ナシト宣言セリ

其他ノ国ハ回答ヲ与ヘズ

特ニ歐州諸國ノ関係ヲ見ルニ

a 奥匈両国ハ条約ニ依リ軍備狀態ヲ規定セラレ

b 英、白、蘭、丁、伊太利、羅馬尼ハ多少ノ留保ノ下ニ

總会ノ希望ヲ容レ

c 西、仏、芬蘭、波蘭、「セルブ、クロアーテ、スロヴ
エン」、希臘ハ希望ヲ容レズ

九 國際聯盟ニ於ケル軍備制限問題ニ関スル件 四九六

五七〇

程ハ前日ニ引続キ統計問題ヲ主題トス第三分科会ノ報告ニ依レバ統計蒐集ノ為メ各國政府ニ提出スペキ左ノ如キ questionnaire ハ作り右ニ基キ一九一三年及一九一二年度

(戦前戦後ノ状況ヲ比較セントメ)ノ統計ニ関シ回答ヲ求メントスルニアリ

(一)人口面積陸地並ニ海岸線ノ国境延長但シ本国ト殖民地ト

ヲ区別スルヲ要ス

(二)平時兵員数(陸海軍ヲ含ム)

(三)兵役期間現役及後備兵役義務期間

(四)各年兵役ニ服スベキ人員

(五)本国並ニ殖民地ニ於ケル戦時動員シ得ベキ人員並ニ陸海軍部隊数(分科会ニ於テハ七対二ノ多数ニテ可決)

(六)陸海軍現在軍用品及貯蔵員数(八対一ノ多数ニテ可決)

陸軍火砲(重砲、野砲、臼砲、飛行機砲、機銃、機関銃、陸上飛行機、海軍軍艦兵器、海軍飛行機

(七)各年通常及臨時予算

(八)全人口ニ対スル国防費ノ頭割額

(九)総予算ニ対スル国防費ノ割当

右各項ニ対シ回答スルト同時ニ左記条項ノ回答ヲ要望ス

- (a) 一九一三及一九一二年度ノ陸海軍軍事費
(b) 同上各省総予算

- (c) 同年度陸海軍予算ニ関スル報告書及議会ニ於ケル同上議事録各國ノ軍政状態ヲ知ルニ足ルベキ一般立法部ノ業務又ハ其ノ他価値アル刊行物

(d) 陸海軍編成法規

右 questionnaire ノ中(五)及(六)ハ動員ニ関スルモノニシテ各國共ニニ関スル回答ヲ求メラルハ最迷惑トスル所ニシテ本問題ハ本委員会中最難件タリシナリ議長ハ如何ナル事情アルモ分科会ニ於テ可決セラレタル questionnaire ノ変更ハ絶対ニ拒否スト云ヘルモ本官ハ予々石井大使竹下中将トモ相談ノ結果当日ノ議場ニ於テ(五)及(六)ヲ留保シテ其ノ他ニ賛成ヲ表シタリ其ノ理由トスル所ハ報告中當 questionnaire ノ作成スルニ当リ動員ノ如キ各國政府ガ回答ヲ難ズル問題ニハ成ルベク触レザル趣旨ヲ採用シタリアルニ鑑ミ(五)及(六)ハ正ニ右ノ趣旨ニ衝突スルニ依リ寧ロ(五)及(六)ハ之ヲ廃棄スルヲ可トスベキニ非ズヤトノ意味ヲ以テシタリ仏英両國委員モ直接ニ右廃棄ヲ主張セザルモ真意ハ其ノ廃棄ヲ希望シ婉曲ニ本官ノ趣旨ヲ支持スル態度ヲ執リタルモ議

為スコット前記報告前文中ノ(五)及(六)ト衝突スル文句ハ其ノ後削除セラルニ至リタルモ議事録ニハ其ノ文句ヲ挙ゲテ本官反対ノ理由ヲ示シ居レリ

米ヘ転電欧各大使ヘ郵報セリ

註 別電第五九号省略

四九七 九月八日 在ジュネーヴ 聯盟總会代表ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

第一回委員会ニ於テ兵器彈薬通商兵器彈薬民營等ノ問題討議並第三回委員会討議状況報告

ノ件

第六二一號 (九月十日接受)

田付ヨリ

第三号ノ一
questionnaire ハ触ルルコトヲ避け統計蒐集ハ先以テ各種

公館別ニ依リテ其材料ヲ得ルニ努メ必要ノ場合ニ始メテ各國政府ニ情報ヲ求ムルコトト為スベントノ意味ヲ提議ヲ為

シ議長ハ右ハ材料蒐集ノ手続ナリト云フ理由ニ依リ之ニ同意シ一人ノ異議ナク右提議ハ可決セリ
就テハ聯盟總会ニハ大体別電第五九号ノ通リノ決議報告ヲ

ルヲ得ベク右条約ノ或条項ハ委任統治地ニモ適用セラレ右条約調印國以外ノ國モ該條約ニ加入可能ナルベク右加入ヲ得テ之ニ条約ノ実行ヲ強ユル為ニハ先づ調印國自身ニ於テ其實行ヲ為サザルベカラズ然ルニ大國ノ何レモ未ダ右条約ヲ批准シ居ラズトテ右ニ閔スル各國ノ現状ヲ述べ更ニ米國ノ加入ハ最モ必要ナル理由ヲ（脱）難ズル態度ヲ悲ミ「サンゼルマン」条約ガ一般ニ批准セラルニ至ル迄ノ一時的手段トシテ武器売買ヲ監視シ得ザル地方ヨリノ兵器彈薬輸入ヲ禁ズベキ一ノ附屬議定書ヲ作ル必要アルベシト説キ結局「サンゼルマン」条約ノ実行ヲ急務トセル長文ノ報告ヲ可決セリ

二、兵器彈薬民營ニ関シテハ其報告中先づ武器製造ニ関係アル会社ハ武器製造ヲ盛ンナラシムル為其國ノ輿論ヲ其為メニ有利ナラシムル様種々ノ手段ヲ講シ盛ニ宣伝ヲ行ヒ終ニ戰爭ヲ誘発スル恐無シトセズ乍併武器製造ノ民營ヲ禁ズル時ハ種々ノ不便アルベキヲ説キ民營ヲ許ス場合ノ監督方法トシテ種々ノ条件ヲ挙ゲ民營ヲ禁ズルト否ニ関シテハ何等ノ決定ヲ与ヘズ結局混合委員会ヲシテ其分科会ニ依リ今後益々研究ノ歩ヲ進メシムル様聯盟總会ニ勧告スルコト可決セリ

分科会ノ作用ヲ容易ナラシムル為書記局及ビ聯盟局ヨリ材料ノ給付ヲ仰グコト國際會議解散ノ推奨ヲ右報告中ニ為スコトトシ可決

右ニテ第二回委員会ヲ終ル

第三回委員会ハ九月五日前開会（議長「ヴィヴィアニ」）總会ニ提出スベキ報告ニ関スル Introduction ニ関シ討議種々意見交換ノ後多少ノ修正ヲ加ヘ可決

右 Introduction 中ニハ大体ニ於テ之迄ノ討議ノ結果ヲ約言シ就中世界ノ大勢ハ今尚不安ノ状態ニ在ルヲ述べ旧敵国ニ対スル兵備撤廃ノ件ハ今日迄ノ處稍順當ニ進捗セルコト Harding ノ提議ハ聯盟ニ於テ歓迎スルコト Washington 會議ハ強大ナル海軍国間ニ一ノ協定ヲ見ルノ望ナキニ非ズ右ハ今回提出セラル可キ規約第二十二条改正ノ目的タル Ententes régionales ノ趣旨ニテ起草スペキモノナリト云ヒ華盛頓會議ノ成効ヲ祝福セリ

在米大使ヘ転電シ在欧各大使ヘ郵報セリ

會議ハ強大ナル海軍国間ニ一ノ協定ヲ見ルノ望ナキニ非ズ右ハ今回提出セラル可キ規約第二十二条改正ノ目的タル Ententes régionales ノ趣旨ニテ起草スペキモノナリト云ヒ華盛頓會議ノ成効ヲ祝福セリ

在米大使ヘ転電シ在欧各大使ヘ郵報セリ

四九八 九月八日

在ジユネーヴ竹下海軍稻垣及静間陸軍各
代表ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

第六回軍事委員会總会ニ於テエストニア等三

國軍備ノ審議、規約第九条改正、調査権事項

二付討議ノ件

聯軍第四三号

九月六日支那代表司会ノ下ニ第六回軍事委員会總会開催左

ノ三問題ヲ討議ス

一、「エストニア」「レットニア」「リツニア」三国軍備ノ審議
右三国ハ本年更ニ聯盟加入ヲ申込ミ「エストニア」「レッ

トニア」両国政府ハ其ノ現在軍備ハ昨年聯盟加入ヲ申込メ

ル際ト相違ナキ旨ヲ通報セシモ「リツニア」國政府ハ未だ現在兵備ヲ通報セズ委員会ハ Tayole 元帥ノ提議ニ基キ

次ノ決議ヲナス軍事委員会ノ接受セル情報ニ拠レバ本年八月ニ於ケル「エストニア」「レットニア」両國ノ陸海空軍

兵力ハ昨年十二月軍事委員会ガ審議シ理事会ニ意見ヲ具申セル其ノ兵力ト同一ナリ從テ前具申ヲ変更スベキ理由ヲ見ズ「リツニア」國ニ閔シテハ事務總長ガ同國ニ要求セル

右三國ハ本年更ニ聯盟加入ヲ申込ミ「エストニア」「レッ

トニア」両国政府ハ其ノ現在軍備ハ昨年聯盟加入ヲ申込メル際ト相違ナキ旨ヲ通報セシモ「リツニア」國政府ハ未だ現在兵備ヲ通報セズ委員会ハ Tayole 元帥ノ提議ニ基キニ改正案第一項ハ旧敵國以外ノ諸國ノ軍備報告ニモ調査ヲ行フ可キ機関ノ設置ヲ要求ス改正ノ動機如何ニ付テハ余ハ何等知ル所ナク或ハ政治上ノ目的ニ基クモノナラン此ノ問題ニ關シテハ仏國委員ハ第五回軍事委員会ニ於テ明瞭ニ反対意見ヲ開陳セルガ今日之ヲ変更スベキ理由ヲ見ズ（脱）忠実卒直ニ軍備情況ヲ報告スルノ義務ヲ避クベシト思ハル理由ナク若シ或國ニシテ特別事項ヲ知得セントセバ調査

九 國際聯盟ニ於ケル軍備制限問題ニ関スル件 四九九

委員ニ対シテモ又之ヲ知得シ得ベク且ツ同委員ノ如キハ軍

事上ノ見地ヨリシテ当然秘密ヲ維持スベキモノナレバ調査

委員ニ之ヲ開放スルヲ肯ズル政府ナル可シ又規約第九条

ハ一般的ニシテ且ツ極メテ明確ナレバ之ニ何等ノ附加ヲナ

スノ必要ヲ認メズ改正案第二項ハ國際參謀本部ノ設立ヲ企

図スルモノナルガ我委員會ハ将来ノ作戦ノ目的及使用シ得

ベキ兵力ニ関シ何等知ル所ナク又參謀部ノ編成ヲ有セズ國

際參謀本部編成ノ不可能事タルハ大戰争ノ経験之ヲ証シテ

余リアリ故ニ我等ガ改正案第二項ニ同意セバ之実行不可能

ナル案ニ同意スルモノト云フ可ク改正案起案者ハ或ハ軍事

ノコトニ通曉セザリント弁明スベキモ専門家ヨリ成ル我委

員會ハ何等弁明ノ辞ヲ求ムルニ由ナカルベシ改正案第三項

ニ付テハ軍事委員會ハ必要ニ際シ常ニ此ノ任務ヲ達成スル

準備ニ（脱）ルモノナレバ特ニ之ヲ記載スルノ要ナシ故ニ

本改正案ニ対シ軍事委員會トシテハ理事会ニ從來ノ意見ヲ

維持スル旨ヲ報告スルヲ以テ足レリトセ（仏海軍代表意

見終）此ノ明瞭ナル反対意見ニ対シ滿場賛成シ Lacaze 提

督ノ陳述ニ基キ理事会ノ報告文ヲ作為スルニ決ス仏国政府

ノ提議セル改正案ニ仏国軍事委員ガ熱烈ナル反対意見ヲ主

張セル事情ニ関シテハ別電ス

三、調査権事項ニ要スル経費問題

本問題ニ關シ囊ニ理事会ハ軍事委員會ニ於テ聯盟事務局職

員ノ補助ノ下ニ之ヲ研究スベク必要ニ際シテハ財政經濟委

員會ニ協議スベキコトヲ要求セシヲ以テ委員會ハ此ノ問題

討議ノ指導者タルベキ財政専門家ノ任命ヲ事務総長ニ要求

シ其ノ參加ノ下ニ審議スルニ決シ散会ス

四九九 九月十二日 在ジユネーヴ竹下海軍稻垣及静間陸軍
各代表ヨリ 内田外務大臣宛（電報）

規約第九条改正案及調査権事項等討議統報ノ件

聯軍第四四号

（九月十三日接受）

七日軍事委員會総会第二日ノ議事次ノ通り

一、規約第九条改正案ニ対スル Lacaze 提督ノ反対意見書

（聯軍第四三号記載ノ意見ヲ求メタルモノ）

討議ニ附シ一二修正ノ上可決シ軍事委員會意見トシテ理事

会ニ送附スルニ決ス

二、調査権事項ニ要スル経費問題

本問題ハ事務総長ノ指名スル財政専門家ト共同審議スルコトニ決シ居ル處英國陸軍代表ハ審議ヲ容易ナラシムルタメ（九代表中ヨリ一名宛即チ八名ヨリ成ル分科会ノ設立ヲ提議シ日本ヨリハ静間少将ヲ指名セリ）

三、混成委員會経過概要報告

Lacaze 提督ハ軍事委員會ヲ代表シ混成委員會ニ列席セル委員ニ同會議経過概要ノ報告ヲ要求シニ同委員ノ資格ニ関シ討議アリシ後八日前右委員集会シ報告案ヲ審議スルコトト決シ散会ス

五〇〇 九月十三日 在ジユネーヴ竹下海軍稻垣及静間陸軍
各代表ヨリ 内田外務大臣宛（電報）

軍事委員會ニ於テ混成委員會報告ノ討議及軍

事委員會ニ対スル非難ニ關スル件

聯軍第四五号

九日前十時委員會第三日ノ議事次ノ通り

混成委員會結果議長報告混成委員會ニ列席セル委員ノ報告ヲ討議ス該報告ノ要旨次ノ如シ

第一ニ混成委員會ハ既ニ軍事委員會ノ審議セルモノ以外ニ

九 國際聯盟ニ於ケル軍備制限問題ニ關スル件 五〇〇

九 國際聯盟ニ於ケル軍備制限問題ニ関スル件 五〇一

五六六

問題ヲ解決セシメントセバ數年ヲ要すべく其結果ハ規約ニ

予期セラレザリシ軍事委員会ト重複スル機関ノ設立トナルベキヲ指摘セリ此報告ヲ討議ニ付スルヤ委員会ノ議事録附

錄トスベキヤ又ハ單ニ委員ノ参考ニ止ムベキヤ又混成委員会ニ対スル攻撃ノ部ヲ削除スル可トセズヤトノ議論生セシガ結局其儘之ヲ議事録トシテ添付スルコトニ決ス

二 軍事委員会非難ニ対スル抗議
八日聯盟總会ニ於テ南阿全權 Cecil 卿ガ軍事委員会活動ノ不充分ナルヲ攻撃シ解散スルヲ可トセズヤトノ語氣ヲ洩セルニ対シ Lacaze 提督ハ軍事委員会ガ理事会ノ諮詢ニ対シ迅速ニ意見ヲ具申シ時ニハ進ンデ規約規定事項ノ審議ニ当たりタルニ拘ラズ此言ヲ聞クハ意外トル所ナリ宜シク我委員会ハ此攻撃ニ対シ理事会議長ニ弁明材料ヲ供給スベシト説キ全員之ニ同意ヲ表シ同提督ニ弁明案ヲ委任セリ

五〇一 九月十三日 在ジュネーヴ竹下海軍稻垣及靜間陸軍内田外務大臣宛（電報）
軍事委員会ニ於テ同委員会非難ニ対スル理事會へノ具申及リスアニア國軍備審議ノ件

申案ノ討議ニ入ルヤ「セシル」卿ノ非難ニ対スル抗議的説明トシテハ前段ノミニテ足リ後段ハ之ヲ分離シテ後日理事会ニ提出スルヲ至当トセズヤトノ議論出デシガ Lacaze 提督ハ両問題ノ関係密接ナルヲ指摘シ總会ニ対スル弁明ノ為メ此ノ具申ヲ如何ニ利用スベキカハ之ヲ理事會ニ委スベシト主張シ異議ナク可決ス

1' Lithuanie 国軍備審議

此ノ日「リスアニア」政府代表者ヨリ同國軍備ニ関シ報告シ来リシガ陸軍々備ニ關係スルモノノミナレバ先づ之ヲ陸軍部会ノ審議ニ附スルニ決シ散会ス

五〇一 九月十五日 在ジュネーヴ稻垣陸軍中將ヨリ 内田外務大臣宛（電報）
軍事委員会陸軍部会ニ於テリスアニア國軍備現状ニ關シ審議ノ件

現状ニ關シ審議ノ件

九月十三日陸軍部会第二回ノ議事概要左ノ通り

此ノ日「リスアニア」國軍備現状ニ關シ Chardeng 大佐ノ意見ヲ聽取スル予定ノ處同大佐ハ現職責上意見ノ開陳ヲ回避シ英國調停委員 Burt 少將來会全然個人的ノ意見トシ

國聯陸第二七号

（九月十七日接受）

九月十三日陸軍部会第一回ノ議事概要左ノ通り

ノ意見ヲ聽取スル予定ノ處同大佐ハ現職責上意見ノ開陳ヲ

回避シ英國調停委員 Burt 少將來会全然個人的ノ意見トシ

九 國際聯盟ニ於ケル軍備制限問題ニ關スル件 五〇一 五〇二

聯軍第四六号 （九月十五日接受）
九日午後軍事委員会第四日ノ議事概要次ノ通り

一、軍事委員会非難ニ対シ理事会ヘノ具申

Lacaze 提督起案ノ具申案ヲ討議ニ附ス該案ハ「セシル」

卿ノ軍事委員会非難ノ字句ヲ冒頭トシテ軍事委員会ノ既

ニ完成セル作業ヲ列挙シ理事会ノ諮詢ニ対シ常ニ迅速ニ

意見ヲ具申セルノミナラズ規約第八条ノ軍備制限問題ニ

於テモ進ンデ之ヲ討究審議セル旨ヲ述べ次デ去ルニ月開催ノ理事会ガ軍事委員会ノ作業ノ結果ヲ賞揚セル報告ヲ

掲ゲ之ヲ以テ軍事委員会ノ活動ヲ証明スルニ充分ナリトシ更ニ次回ニ対シ軍事委員会ト混成委員会トノ関係トヲ

明示セムコトヲ要求シ混成委員会設立ニ関スル理事会報告ヲ引証シテ混成委員会ハ軍事委員会ト協力シテ軍備制

限問題ノ審議ニ当ルベシト述べアルコト及聯盟總会ハ混成委員会ニ対シ専門的考案ト実際的事実トヲ考慮ニ置キ

公益見地ニ基キ軍備制限問題ヲ考究スベキコトヲ希望セルコトヲ指摘シ同会委員中ニハ此ノ考慮ヲ失念セルモノ

アルカ如キガ故ニ理事会ハ同会ニ列席スル軍事委員会委員ノ任務ヲ明確ニ議定セムコトヲ希望スル旨ヲ述べ本具

テ同國ノ師團及砲兵聯隊ノ増加ハ部隊改編ノ結果ニシテ実員ノ上ニハ之ト云フ変化無ク「ボーランド」ニ対シ虛勢ヲ張ル目的ニ過ギズ「リスアニア」政府ハ「ウイ爾ナ」方面ノ Zeligowski 軍ヨリハ寧ロ Kalwara 方面ヨリ「ボーランド」軍ノ進行ヲ憂慮シ居ル旨ヲ述フ次テ「リスアニア」國ノ聯盟總会全權 Galvanauskas 氏臨席述ヘテ曰ク砲兵聯隊ノ増加ハ編制改變ノ結果ニ過キス師團ノ増加モ部隊數ノ増加ニテ兵員ノ増加ハ云フニ足ルモノ無シ現在ハ休戦狀態ニアリテ帰郷兵多ケレハ全体人員ノ数ハ不明ナリ軍費ハ財政ノ約一分ノニ達ス現在ノ軍備トシテハ多キニ過クルモ Zeligowski ニ対スル自衛上止ムヲ得ス「ウイルナ」地方カ「リスアニア」領ト成レハ現人口ノ二百二十万ニ対シ四乃至五百萬ニ増加スヘク然ル際ニハ現在ノ軍備ヲ維持セムコトヲ欲ス尚同國參謀總長十四日夕「ゼネヴァ」着ノ筈ナレバ詳細ハ同官ヨリ聽取セラレタシト部會ハ十五日參謀總長ノ意見ヲ徵スルニ決シ散会ス

五〇二 九月十六日 在ジュネーヴ稻垣陸軍中將ヨリ 内田外務大臣宛（電報）
陸軍部会ニ於テリスアニア國軍備現狀ニ關シ

九 國際聯盟ニ於ケル軍備制限問題ニ關スル件 五〇一 五〇二

五六七

審議統報ノ件

(九月十八日接受)

國聯陸第二八号

九月十五日陸軍部会第三回議事ノ概要左ノ通り

議長 Clive 大佐ハ「リスアニア」國參謀總長ハ Pologne 通過不可能ニテ一部海路ヲ取ルノ必要上「ゼネヴァ」到着一日間遅延スヘシ然ルニ一方聯盟總会第六回委員会(新加入国拒否審査)ハ多分此ノ日午後「リスアニア」國加入問題ヲ討議スヘキカ故ニ一部専門的事項ヲ省ケル報告ヲ速カニ理事会ニ提出スルヲ可トセスヤト提議シ全会異議無ク討議ニ入ル仏國陸軍代表ハ「リスアニア」現在ノ軍備ハ平時狀態ニ非スシテ休戦狀態ニ在レハ此ノ不安定ノ情況ノ消滅スル迄ハ軍備ノ審議ヲ延ハスヲ必要トスト説キ議長ハ昨年「ントニヤ」國カ戰時狀態ノ軍備ヲ有セルニ拘ラス将来ノ縮減ヲ条件トシテ加入ニ同意ノ意見ヲ具申セル例ヲ挙ケテ之ヲ反駁シ審査ヲ要求シニ三意見ノ交換ノ後全会一致次ノ要旨ノ意見ヲ採用セリ

一、「リスアニア」國軍備ハ昨年以来歩兵一師団砲兵三聯隊ヲ増加セシカ同國全權ノ説明ニ依レハ此ノ増加ハ Pologne 二対スル現下ノ政治的不安即チ事實休戦ノ狀態ニ在ルヲ障害ト考察シ得ズニ修正セルコトヲ提議シ右両修正案ヲ

コトト「ウイルナ」地方ニ該國軍駐在スルカ為メノ異常ノ状況ニ起因スルモノナリト謂フ

二、陸軍部会ハ千九百二十年以来「リスアニア」國陸軍兵力ノ増加ハ政治状態ノ不安定ヨリ政府カ正当ニ実施セル動員ノ結果ナルコトヲ述ヘ此ノ増加ハ規約第八条ノ主義ニ違反セス從テ之ヲ以テ同國聯盟加入ノ障害ト考察スヘカラストノ意見ヲ有ス「リスアニア」國ノ政情安定セハ陸軍部会ハ更ニ同國政府ノ報告ヲ徵シ平時所有スヘキ陸軍兵力ニ関シ理事会ニ意見ヲ具申セントス

五〇四 九月十九日 在ジュネーヴ竹下海軍総理及靜間陸軍各代表ヨリ 内田外務大臣宛(電報)

軍事委員会ニ於テリスアニア國陸軍軍備討議

統報ノ件

(九月二十日接受)

聯軍第四八号

九月十六日軍事委員会第六回會議経過概要
國聯陸第一八号報告ノ「リスアニア」國陸軍軍備ヲ討議ニ付ス Lacaze 提督ハ規約第八条ハ既加入國ニ関係スルモノニシテ既加入國ノ兵力審査ニハ規約第一条ニノミ言及スベ

採決セシリ Lacaze 案ハ仏蘭西白耳義両國ノ外不同意ニテ否決 Ceuninck 案ハ仏蘭西伯刺西爾両國ヲ除キ六ヶ國同意ニテ可決右ニテ問題ノ討議ヲアリタレド理事会ヨリ Ranfig 防禦問題ヲ批准シ来ル答ナルヲ以テ會議ヲ継続スルニ決シ散会